



平成22年度

入間市青少年異文化体験訪問団

派遣事業報告書

【姉妹都市：ドイツ・ヴォルフラーツハウゼン市】



期 日 平成22年8月3日（火）～8月12日（木）

入 間 市

入間市国際交流協会

ドイツ・ヴォルフラーツハウゼン市

概 要

【姉妹都市提携年月日】 1987（昭和 62）年 10 月 14 日

【人口】 約 17,400 人

【面積】 8.74 k m²（豊岡地区程度）

【地理】 ミュンヘンの南約 30 k m・標高約 600m

【産業】 軽工業・手工業・日本へも輸出をしているシール（器を密封する）工場があります。また、牧畜も盛んです。

【観光】 ^{いかだ}筏下り・自然美・キャンプ場など各種スポーツ施設

【経緯】

入間市は、市制施行 20 周年記念事業の一環として、海外の都市との姉妹都市提携を検討していました。

そこで候補として挙げられたのが、市内にある武蔵野音楽大学と縁のあったヴォルフラーツハウゼン市でした。両市は東アジアと西欧とに遠く離れて位置しており、人口もヴォルフラーツハウゼン市は入間市の 8 分の 1 程度と大きな差がありました。しかし、共に東京とミュンヘンという大都市の近郊都市であり、共に市内に河川が流れ、共に音楽ホールを有するなど共通点も多く、姉妹都市提携を妨げるものではありませんでした。また、ヴォルフラーツハウゼン市は入間市の目指す「香り豊かな緑の文化都市」のイメージに相応しい都市でした。

そして、昭和 62 年 10 月 14 日に姉妹都市提携が行なわれました。

その後、青少年異文化体験訪問団、市制施行周年式典・万燈まつりをはじめとする各種行事への訪問団などが相互に頻繁に派遣されています。

目 次

○ 訪問団員名簿	1
○ 同時派遣：友好日本庭園管理指導者派遣事業	2
○ 事業日程表と当初の行動予定表	3～4
○ メンバー紹介	5～9
○ お世話になった方々	10～17
○ 行動の記録	18～48
◎ 訪問団員報告	
☆貴重な体験 in ヴォルフラーツハウゼン市	佐藤一平太 49～51
☆姉妹都市訪問を終えて	堅田 美智 52～53
☆この事業を通して思ったこと	田村恵里佳 54～56
☆西欧の地で	川畑 菜水 57～58
☆わたし in ドイツ	西永みなみ 59～60
☆一生の思い出	金子 美桜 61～62
☆ドイツでの思い出	絹山寿理亜 63～64
☆ドイツ！ドイツ！ドイツ！	北村 翼 65～66
☆ヴォルフラーツハウゼン市訪問を終えて	安達 牧子 67～69
☆青少年異文化体験訪問団派遣事業を終えて	増岡 哲也 70～72
○ アルバム	73～76
◎ 学習の記録	
☆ドイツの建造物から学んだこと	佐藤一平太 77～78
☆ドイツの建築	堅田 美智 79～80
☆表現派について	田村恵里佳 81～82
☆ドイツでの学習	川畑 菜水 83～84
☆環境の学習	西永みなみ 85～86
☆ドイツの医療制度	金子 美桜 87～90
☆酸性雨について	絹山寿理亜 91～92
☆ドイツで学んだこと	北村 翼 93～94
○ 異文化体験訪問団派遣事業に参加される方々へ	95～96
○ ドイツの地方紙に掲載された記事	97～100
○ 訪問団員作成報告書資料（抜粋）	101

訪問団員名簿

入間市代表



団長(引率者)
自治文化課
ますおか てつや
増岡 哲也



ドイツ語
通訳者
あだち まきこ
安達 牧子



リーダー
大学1年生
さとういっぺいた
佐藤一平太



サブリーダー
大学2年生
かたた みち
堅田 美智



写真記録担当
高校2年生
たむら えりか
田村恵里佳



写真記録担当
高校1年生
かわはた なみ
川畑 菜水



お別れ会担当
高校1年生
にしなが
西永みなみ



お別れ会担当
高校1年生
かねこ みお
金子 美桜



報告書担当
大学1年生
きぬやまじゅりあ
絹山寿理亜



報告書担当
高校1年生
きたむら つばさ
北村 翼

同時派遣：友好日本庭園管理指導者派遣事業

【訪問団員】



入間市造園組合
金正園
かねこ まさゆき
金子 正行



入間市造園組合
(有)近藤園
こんどう かつみ
近藤 勝美



入間市造園組合
(有)金子庭園
かねこ かつら
金子 勝良



剪定前



剪定後

【友好日本庭園の様子】



剪定前



剪定後

平成15年にヴォルフラーツハウゼン市(以下ヴォ市)の千年祭に合わせて、入間市から友好日本庭園を寄贈しました。今年は、その庭園の管理指導に3名(入間市造園組合選出)の技術者を、「青少年異文化体験訪問団」と同日程で派遣しました。

この日本庭園はヴォ市市民の憩いの場となっており、普段はヴォ市市民が管理を行っていますが、その技術指導と、ヴォ市では管理しきれない部分の手入れ(大規模剪定)を行うために派遣しました。管理指導者のみならず、ヴォ市市民と協働で作業を行い、庭園管理を通じた市民交流が深まりました。

事業日程表

- | | | |
|---------------|----|---|
| ○入間市国際交流協会総会 | 日時 | 5月7日(金)午後6時30分～ |
| | 会場 | 産業文化センター2階 第2集会室 |
| | 内容 | 派遣者紹介・派遣事業における抱負を語る |
| ○第1回事前研修 | 日時 | 5月29日(土)午後6時30分～午後8時00分 |
| | 会場 | 産業文化センター2階 研修室 |
| | 内容 | 派遣事業概要説明・事業日程・パスポート取得方法・写真撮影・学習テーマについて |
| ○第2回事前研修 | 日時 | 6月12日(土)午後6時30分～午後8時00分 |
| | 会場 | 産業文化センター2階 研修室 |
| | 内容 | 旅行保険・準備用品・外貨両替・旅費・互助会費・前回の派遣者を囲んで・役割分担・ホームステイの方法・お別れ会の演目について |
| ○結団式及び第3回事前研修 | 日時 | 7月3日(土)午後6時30分～午後8時00分 |
| | 会場 | 産業文化センター2階 研修室 |
| | 内容 | 市長、市国際交流協会正副会長・選考委員の出席により結団式を実施
ドイツ語のレッスン・お別れ会の演目・ホストファミリーの情報・旅費と互助会費の集金について |
| ○第4回事前研修 | 日時 | 7月24日(土)午後6時30分～午後8時00分 |
| | 会場 | 市民活動センター3階 活動室2 |
| | 内容 | 滞在日程細部説明・質疑応答・各役割確認・お別れ会演目の練習・報告書作成について |
| ○派遣期間 | | 8月3日(火)～8月12日(木)「行動予定表・行動記録」参照 |
| ○帰国報告会 | 日時 | 8月17日(火)午前11時～午前12時 |
| | 会場 | 市役所C棟5階 503会議室 |
| | 内容 | 市長・市国際交流協会正副会長・選考委員へ帰国報告 |
| ○入間万燈まつり | 日程 | 10月23日(土)・24日(日) |
| | 会場 | 産業文化センター周辺 |
| | 内容 | 市国際交流協会「世界のともだち広場」運営・協力 |

当初の行動予定表

日	時	内 容
8月3日(火)	06:40 06:45 12:25 17:35 19:30 19:30 21:00	入間市役所集合 出発 成田空港離陸(LH715便・ミュンヘン直行便) ミュンヘン空港着(所要時間:12時間10分)時差△7時間 ヴォルフラーツハウゼン到着 歓迎会(フンブルプロイホテル) ホストファミリー宅へ
8月4日(水)	09:00 10:00 13:30 16:00 18:00	第一市長表敬訪問 農業学校見学 昼食(農業学校でバイエルン料理) ゴミ処理リサイクル社見学 乗馬体験 ホストファミリー宅へ
8月5日(木)	08:30 19:00	オーバーランド観光(ヴィース教会・ノイシュバンシュタイン城など) マクドナルドでハンバーガー作り
8月6日(金)	09:00 10:00 11:00 午後 19:00	ヴォルフラーツハウゼン郡病院見学 友好日本庭園見学 グレントライテン野外博物館見学 シュタフル湖(クルージング) ロイヤルホールでコンサート鑑賞
8月7日(土)	09:00 10:30 11:00 13:00 14:30 16:00	フォアシュテルングスルンデ(遊び) パン屋でプレッツェルを焼く体験 ヴォルフラーツハウゼンラリー バイエルン民族衣装体験 バイエルンの遊び体験 入間友好協会の夏祭り・筏祭り
8月8日(日)	終日	ホストファミリーとの1日
8月9日(月)	08:15 09:15 11:00 14:00 15:00 夕方	ミュンヘンへ出発 ペーター教会(約300段の階段を上る) 食品市場マーケットツアー アリアンツ・アリーナ見学 市街見学・買物 ヴォルフラーツハウゼン市・ホストファミリー宅へ
8月10日(火)	09:30 19:00 21:30	ダッハウ強制収容所 お別れ会(ヴィルトハウスフレセライト) 終了
8月11日(水)	09:15 10:15 11:00 15:45	買物 市役所でお別れ ヴォルフラーツハウゼン市発 ミュンヘン空港離陸(LH714便・成田直行便)
8月12日(木)	10:15 11:15 15:00	成田空港着(所要時間:11時間30分)時差+7時間 成田空港発 入間市役所着

メンバー紹介

増岡 哲也



青少年と友好日本庭園管理指導者の同時派遣であったことから、2つの事業の団長として役割を果たすことができるか本当に不安でした。しかし、団員それぞれが自主的に役割を担い、出発前から一致団結することもでき不安は一気に解消されました。このメンバーでヴォルフラーツハウゼン市を訪問できたことを誇りに思います。一生忘れない思い出となりました。

メンバーより

佐藤一平太

僕等の頼れる団長！挨拶のことばの発表などはとても格好良かったのですが、写真の方などでは楽しい変顔をみせて頂きました！

堅田 美智

慣れない土地で常にみんなの先頭に立って、派遣団員達を引っ張ってってくれました。是非とも私もその積極性を見習いたいと思います。派遣団長お疲れ様でした。

田村恵里佳

最初から最後まで本当にお世話になりました！昔教えて貰っていた先生が同じという事もあって、びっくりしました。ドイツで安全に過ごせたのは、てっちゃんのお陰です！ありがとうございました！！

川畑 菜水

団長として、とても頼もしかったです～。今回はご苦労様でした！

西永みなみ

てっちゃん。私たち青少年が無事、かつ有意義にドイツに滞在できたのは団長てっちゃんあってのことです。ありがとうございました！

金子 美桜

団長、お疲れ様でした。みんなをまとめるのはとても大変なことだったと思います。てっちゃんの頑張りのおかげで、とても楽しい滞在にすることができました。ありがとうございました。

絹山寿理亜

みんながまとまって行動できたのは、増岡さんのおかげです！ありがとうございました！・・・アリアンツアリーナで決めたゴールがすごく印象に残っています(笑)

北村 翼

団長として頑張ってくれたてっちゃん。頼りになりました。本当にお世話になりました。SuperDanke!!

安達 牧子

テンポ早く、声も大きい。足を痛めながらも足が3本あるかのように団長らしく行動していました。大人数引き連れてお疲れ様でした。

安達 牧子



ヴォルフラーツハウゼン市の方々の受入れではいつも楽しくお手伝いさせていただいております。この6年間で知り合った人達と再会できて感激しました。今回の訪問でもドイツの印象は基本的に以前と変わりなく、ほっとしました。ツワモノ青少年のメンバーとご一緒でき、また色々な思い出を作れたことをうれしく思います。

メンバーより

佐藤一平太

ドイツ語の通訳でお世話になりました。しかし、お茶目な一面もあり、女子メンバーの間からは「かわいい」と専らの評判でした！

堅田 美智

難しいドイツ語を上手に喋っていてすごいな、いつも思っていました。私も安達さんのようにドイツ語を今後さらに頑張っ勉強していきたいと思います！

田村恵里佳

みんなの人気者、安達さん！！最初会ったときは「静かな人なのかな～」と思っていたけど、・・・違った！！(笑)そのすばらしいキャラを、是非とも大切にしてください！！

川畑 菜水

民族衣装がとっても似合っていました～♪全体的に可愛かったです安達さん…。もう一度一緒にドイツ行きましょうね！

西永みなみ

安達さん・・・安達さんとおしゃべりは、とっても楽しくて時間があつという間でした！ドイツにいる安達さんはすごくキラキラしてました♥

金子 美桜

しっかりしてそうで案外ぬけてる安達さん、超面白かったです！一緒に話したり、盛り上がったたり、お買い物に行ったり。お姉ちゃんみたいでした。天然な安達さん、大好きです！！

絹山寿理亜

ドイツでの安達さんは、日本にいる安達さんと違って見えました(笑)いつの間にか顔パスでコーヒーやアイスをもらっていたなんて・・・一体なにをしたのですか！？笑

北村 翼

ドイツと日本じゃテンションが全く違った安達さん。あのカメラはいつもおもしろかったです。またドイツ行けたらいいですね。

増岡 哲也

語学力がない私の心の支え。ドイツ語通訳として大活躍。「マキコ・マキコ」とヴォ市の方々にも絶大な人気者！若く見えるので青少年と間違えられていたかも？

メンバー紹介

佐藤一平太



行く前は不安だらけだったけど、行ってみたら瞬間に過ぎてってしまったドイツでの日々でした。最高の思い出です。

メンバーより

- 堅田 美智 大学生らしく、ノリがよくていつも会話の中心になってくれました♡ リーダーとしても青少年のみんなをまとめてくれて助かりました。リーダーお疲れ様でした！
- 田村恵里佳 行きの飛行機も帰りの飛行機も何故かペーターと一緒にだったって記憶が妙に残ってる(笑)なんか色々人生相談？みたいなのに乗ってくれたりして、頼もしかった！さすがリーダー！
- 川畑 菜水 いざという時に役に立った！多分。なんだかんだで頼れる人でした。またイザベラちゃんに会えるといいね^^
- 西永みなみ ペーターはリーダーとして、青少年を代表して抱負をのべてくれました。大学生のお兄さんという感じで話もおもしろくて聞いていて勉強になりました(´▽`)ありがとうございました！
- 金子 美桜 リーダー、お疲れ様でした！ムードメーカー的存在で、みんなを盛り上げてくれたね。今度会うときは、黒ぶちメガネ、忘れないでね(笑) ありがとう。
- 絹山寿理亜 さすがリーダー！なんだかんだで頼りになりました(笑)イザベラとたくさん絡むことが出来て良かったね(´▽`)
- 北村 翼 めっちゃ頼りになるリーダーでした。派遣団のなかでは一番乗りがよくコンサートでの踊りは普段パーティー慣れしているドイツの青少年も顔負け!!!リーダーDANKE！
- 安達 牧子 だんだんドイツに慣れてきたら、ボディランゲージも加わってハイ(hight)になっていった一平太君。初めの印象と変わってきました。
- 増岡 哲也 派遣候補者が決まった時から、一平太をリーダーにしたいと思っていました。他のメンバーも同じ気持ちだった？と思います。大役、お疲れ様！

堅田美智



小さいころからずっと行くことを夢見ていたドイツ。初めての海外旅行ということもあり出発前は不安が少なからずありましたが、ドイツ滞在中は常に向こうの方々々が気を配ってくださり、改めて人の温かさというものを感しました。この経験を無駄にはせず、勉学そして今後の人生にと様々な場面で役立てていきたいと考えています。

メンバーより

- 佐藤一平太 メンバー1のしっかり者かと思いきや意外とはっちゃけた部分も！？
- 田村恵里佳 みっちー大好き！みっちーみたいなお姉ちゃん欲しい！最年長ってだけあって、本当に大人っぽかった。一緒に好きなアイドルの話もできて嬉しかった！ありがとう、みっちー！
- 川畑 菜水 色んな事を積極的に調べていて、さすが大学生さん、お姉さんのような存在でした！そのうちドイツ語教えてね！
- 西永みなみ みちさん～(・▽・*)ノみちさんとは移動のバスでた～くさんお話ができてうれしかったなあ♪頼りになるおねえちゃん♡としつこくつきまとっちゃいました(笑)これからもよろしくおねがいします！
- 金子 美桜 優しく、かわいいお姉ちゃんでした！行きと帰りでかなり美智さんに対する印象が変わったような…(笑)素の美智さん、大好きです！
- 絹山寿理亜 ホストファミリーとドイツ語で会話していて、すごかったよかったです！たくさん迷惑かけちゃってごめんね(><)またドレクスル家に泊まりたいね！笑
- 北村 翼 青少年のお姉さん二人の内のひとり美智！副リーダーもやってくれてありがとう。民族衣装を着た美智はお人形さんみたいでした(笑)
- 安達 牧子 青少年の中の年長者だけあって落ち着きをみせていました。が、私と並んでカメラ紛失騒動をおこしたのも、良い思い出のひとつだね。
- 増岡 哲也 青少年の中で最年長。しっかり者のお姉さん。一平太の補佐役として、影のリーダーとして大活躍。本当に頼りにしていました。カメラは残念でしたね。

メンバー紹介

田村 恵里佳



英語で話す事があまり得意ではなかったのですが、ドイツの方々も一生懸命話してくれたり、いろんな面で温かさを感じることが出来て嬉しかったです。あと、このメンバーでドイツに行けて本当に良かったです！！

メンバーより

- 佐藤一平太 何故「タコ」というあだ名なのか、ドイツでの日々を経て何となくわかりました。
- 堅田 美智 美桜ちゃんと共に、いつもみんなを盛り上げてくれました。4人で車の中でした色々なお話、楽しかったね♡ とても良い勉強になりました(笑)
- 川畑 菜水 今回は色々ありがとう!頼りになったし、仲良くしてくれて嬉しかったです!!今度またドイツ一緒に行きたいなー。
- 西永みなみ たこさんは、いつも優しく、学校でもドイツでも頼れる先輩でした(^^)♪ありがとうございました!
- 金子 美桜 いつでもテンションが高かったタコさん♪ドイツにいたにもかかわらず、二人でNEWS大合唱してたね(^_^;) タコさん好き好きー!
- 絹山寿理亜 ポールとたくさん絡むことが出来て良かったね! キンダーサプライズの中身がタコだったのには、思わず爆笑してしまいました(笑)
- 北村 翼 タコ!?一番不思議なあだ名だった恵里佳。うちのホストファミリーのお兄ちゃんLeoのことをレオ様って呼んでいて超面白かった! こんどLeoとの2ショットあげるね~
- 安達 牧子 日本に帰ったら飲みに行こうよ、と誘ってくれました。20歳になったらドイツビールを飲みながら人生観の変化を語りたいね。
- 増岡 哲也 得意の英語を使って、沢山会話をしていましたね。積極的な交流は見事! 芯の強さを発揮していました。今後もヴォ市との交流を続けてください。

川畑 菜水



最初は英語をちゃんと話せるかな...などなど沢山の不安がありましたが、行ってみたら皆とても優しく10日間という短い日々を毎日楽しんで過ごせました! 大切な経験が沢山できて、本当に有意義な時間を過ごせたと思います。

メンバーより

- 佐藤一平太 変わったキャラの多い派遣団員の中でも群を抜いての不思議ちゃんでした。
- 堅田 美智 写真記録係として、行く先々でみんなの写真をたくさん撮ってくれました。雰囲気ごとくふわふわしていて、妹みたいで可愛いなと思ってました♡ どうもありがとう!
- 田村恵里佳 不思議ちゃん検定、今度一緒に受けようね(笑) 麦わら帽子が似合うなみに、どれだけ癒されたことか(^_^) 不思議ちゃんなのに趣味が渋いというギャップに萌えました!!
- 西永みなみ なみちゃんは、いろいろおもしろいことをしてくれました... (笑) なみちゃんと話していると日本にいるような感じがして心がほかほかしていました(´▽`)ありがとうね♪
- 金子 美桜 初めてのホームステイだったけど、菜水がいてくれたおかげで安心して過ごせたよ! ありがとう。不思議ちゃん、超うけww 大好きだよ!!
- 絹山寿理亜 まりもを育てていたり、胞子を飛ばしたり(笑)と本当に不思議ちゃんな菜水。一緒にいて、様々な側面を持った菜水が見ることが出来て楽しかったよ~!
- 北村 翼 実は青少年の中で一番の不思議ちゃんだったナミ! 初日からナミの話題でいっぱいでした。しかも地元紙には”Nami ist Kawaii”って書かれていてすごかった!!
- 安達 牧子 物知りで、私も色々教えてもらいました。でも集合場所にいつもいない菜水ちゃん。どこかで寄り道して砂時計でもさがしていたんだろうね。
- 増岡 哲也 慎重派の菜水。事前研修の時から細かなことも積極的に質問していましたね。一番幼く見えたんですが、自分をしっかり持っている子。点呼は菜水さえいればOK!?

メンバー紹介

西永みなみ



はじめてのドイツ！はじめての姉妹都市交流！はじめてのドイツの友達！たーくさんの素敵「はじめて」を満喫してることができました♪（最初は不安もあったけれど・・・）

メンバーより

- 佐藤一平太 ドイツに着くまでは不思議ちゃんNO. 1候補だったのですが、ドイツに着くと意外としっかりとした一面も見せつけられました。
- 堅田 美智 みなみちゃんは、高校生とは思えないほど常に落ち着いて周りの人を癒してくれました♡ ドイツ滞在中にたくさんお話が出来て楽しかったよー！大変お世話になりました。
- 田村恵里佳 最初会ったとき、心臓止まるかと思った！まさかの学校同じっていうね。モノマネの上手さと言いつ頭の良さと言いつ、後輩だとは思えなかった(笑)これからも宜しく！！
- 川畑 菜水 みーやんと一緒にドイツに行けて、本当に良かった！行ききのバスの中のゲームも面白かった(笑)機会があったらまた一緒にドイツ行こうね～^^
- 金子 美桜 一番気兼ねなく話せたな♪みなみの天然っぷり&不思議ちゃん、和みました(^) みなみ、大好きだよ！
- 絹山寿理亜 いつも可愛いみなみ。みなみのほんわかした雰囲気にはいつも癒されていました(^)ホストファミリーに教えてもらった変なことって何だったの？笑
- 北村 翼 第二の不思議ちゃん(?)のMinami-chan!ある朝集合場所に行くと夜に前髪を自分で切ったとか言っていて超びっくり！
- 安達 牧子 ドイツでは日替わり衣装で楽しませてくれました。鋭い観察力の持ち主です。ドイツでもアンテナはフルに働いたことでしょう。
- 増岡 哲也 不思議ちゃん2号の愛称をもった少女。カラフルな服装が特徴で、ファッションセンス抜群？。お別れ会の運営は美桜と一緒にしっかりと取組めましたね。提出物は最初から最後までNo.1でした。

金子美桜



初めての飛行機&海外で、不安もあったけどすごく楽しみだったドイツ！！自然が多くて、町並みがとてもきれいで、毎日がディズニーランドにいるみたいだった♪最初は、ホストファミリーと緊張してあまり話せなかったけど、とてもやさしくしてくれて、帰るときには本当の家族のように仲良くなれました(^) 絶対にまたドイツに帰ります！笑 貴重な体験、ありがとうございました。

メンバーより

- 佐藤一平太 最年少とは思えない行動力と風格で皆を盛り上げてくれました。
- 堅田 美智 入間音頭の印象が強く、最初はどんな子なんだろうと思っていたけど実際はすごく優しく良い子でした(笑) 夏祭りでの美桜ちゃんは山Pよりもいけめんだったよ♡
- 田村恵里佳 ドイツにいるときに、一番良くしゃべっていた気がする！みおのサバサバキャラ、ほんと大好き。最年少なのにみんなのリーダー的存在で頼もしかったよ～ありがとう(^)
- 川畑 菜水 同じステイ先で、一緒にいてくれて安心できました～！次に行く時は日本のトイレトペーパーを持ってバスターに会いに行くといいと思うよ(笑)
- 西永みなみ みお～♡みおは同じ年とは思えないほどしっかりしていて、頼りまくりでした(^ω^)-おじよ、これからもかばんおもちますっ♪
- 絹山寿理亜 入間音頭をみんなに教えてくれてありがとう！上手に踊ることは出来なかったけど、楽しく踊れたのは美桜のおかげです(^)バスターとツーショット写真が撮れて良かったね！
- 北村 翼 恵里佳とは逆にうちの弟くんBastiに惚れていた美桜！お別れ会ではBastiとハグ出来てよかったね～みなみとの司会ありがとう
- 安達 牧子 寝る子は育つ？飛行機に乗り込むと何秒とたたないうちに寝入ってしまう美桜ちゃん。盆踊りのこととなると半端じゃない！？
- 増岡 哲也 お別れ会の演目の決定力(入間音頭)・土産(巾着)の手配の素早さは立派でした。サングラスをしているのを忘れ、本気でアイスクリームの色を間違えていたのはお笑い。

メンバー紹介

絹山 寿理亜



行く前は、不安と緊張でいっぱいでしたが、すぐに馴染むことができました！ヴォ市はすごくきれいな所で、人々も親切でフレンドリー！！また機会があれば、ヴォ市に行きたいです！

メンバーより

- 佐藤一平太 堪能な英語でたびたび会話をフォローしてくれました。
- 堅田 美智 じゅりちゃんには、ホームステイ先でいつも助けてもらっていました。どうもありがとうー！オーストリアに行ったり等、じゅりちゃんと貴重な体験が出来てよかったです♡
- 田村恵里佳 じゅりあの英語の発音がキレイで羨ましい！じゅりあのおっとりキャラと喋り方のおかげで、旅の疲れが一気に吹き飛びました。
- 川畑 菜水 英語の発音が上手すぎる…。明るく話しかけてくれて、どうもありがとう^^ストールとコート、似合ってたよ^^
- 西永みなみ ジュリアさんは、いつもみんなに心配りができて、優しくって、声を聞いているだけでいやされました…(´▽´)♡ノシありがとうございました♪
- 金子 美桜 みんなにとっても優しくったじゅりあ。じゅりあといると安心して、落ち着きました！発音が超きれい！大好きです！
- 北村 翼 英語がうまくていつも積極的に話していたのはすごかった。サッカーに詳しくったのがびっくり！Bayern Muchenのユニフォーム買ってよかったね～
- 安達 牧子 持ち前の語学力と素直さでドイツの青少年と自然に交流してました。あちらで3日続いた雨から何か酸性雨のナゾは解けたでしょうか？
- 増岡 哲也 得意の英会話でヴォ市青少年との交流は見事！日本にいる時とドイツにいる時とで、あんなに変身するなんて。この事業で得た経験を将来の夢に向けて役立てて欲しいです。

北村 翼



初めてのヨーロッパ、そしてホームステイ!!英語には少し自信がありましたが、すごく不安でした。でも、やっぱりドイツは最高の国！ホストファミリーはみんな優しいし、ドイツの青少年とはすぐ仲良くなり最高の10日間でした！

メンバーより

- 佐藤一平太 日本にいると頼りないのに、ドイツにいると何故かとても男前でした。
- 堅田 美智 ドイツで一番輝きを放っていたのが翼くんでした。ドイツの人と積極的にコミュニケーションをとって、見習うべき点がたくさんありました♡ その輝きを日本でも是非！（笑）
- 田村恵里佳 ドイツの人達の集団の中にも、気付いたら違和感なくなじんでいるという不思議なオーラの持ち主(*^_^*) 持ち前のキャラで、男子が少ない中、頑張っていました。
- 川畑 菜水 さすが英語上手いねー。頼りになりました！一緒にいると安心できる存在でした♪ありがとう！
- 西永みなみ つばさくんは、外国人が話す日本語のものまねがとても上手で、英語も上手で、ドイツでは日本にいる時よりも輝いててかっこよかったよ(´ω´)
- 金子 美桜 英語すごい上手！超光り輝いてたよ。テンション高い翼、面白かった！夜中のゲーム大会、楽しかったね♪ありがとう。
- 絹山 寿理亜 行く前はおとなしい子だと思っていたけれど、現地ではドイツの子に積極的に話しかけていたり、とても頼もしい存在でした(^o^)
- 安達 牧子 英語達者な翼君。あちらでは変わったイントネーションの日本語でまわりをなごませていて意外とおちゃらけ少年でした。
- 増岡 哲也 ドイツに着いてから人が変わったように積極的になった翼。1番早く、ヴォ市青少年と打ち解け、得意の英語で交流を図ることができましたね。笑顔いっぱいの姿が忘れられません。

お世話になった方々

◎ホストファミリー

フォルカー・シュウツ 家 . . . 佐藤一平太のホストファミリー



フォルカー・シュウツさん
ウィブケ・シュウツさん (妻)



ソフィア・マディタ・シュウツさん (子)

アルミン・ドレクスル 家 . . . 堅田美智と絹山寿理亜のホストファミリー



アルミン・ドレクスルさん



クリスティーネ・ドレクスルさん (妻)



クラウディア・ドレクスルさん(子)

ヴォルフガング・レッフラー 家

・・・田村恵里佳のホストファミリー



ヴォルフガング・レッフラーさん



クリスティーネ・レッフラーさん (妻)



イルムガート・マイヤーさん
(妻の母)



左 カロリーネ・レッフラーさん (子)
右 イザベラ・レッフラーちゃん (子)

ハインツ・ハーザー 家

・・・川畑菜水と金子美桜のホストファミリー



イングリッド・ハーザーさん (妻)



左 ロレンツ・ハーザーくん (子)
右 シュテファニー・ハーザーさん (子)



ハインツ・ハーザーさん

ヨセフ・ヘップル 家・・・西永みなみのホストファミリー



ヨセフ・ヘップルさん



カリン・ヘッペルさん(妻)



トビアス・ヘッペルくん(子)



リサ・ヘッペルさん(子)



リナ・ヘッペルちゃん(子)

ステファン・ゴラー 家・・・北村 翼のホストファミリー



左 クリスティーネ・ゴラーさん(妻)
右 ステファン・ゴラーさん



左 レオポルド・ゴラーくん(子)
中 フランシー・ディーゼルさん(レオの彼女)
右 バスティー・ゴラーくん(子)

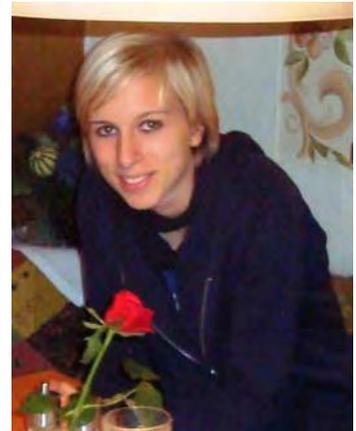
◎入間友好促進協会



会長 エルヴィン・ポロチェクさん
& アンドレア・ポロチェクさん



フリッツ・グランドル氏
& クラウディア・アルベルトさん



テレザ・ボルツマツヒャーさん フィリップ・リードルさん クリスティーナ・マイヤさん



マリア・マンネスさん



ディートリンド・ディーペンさん



ヴァルトラウド・ボガッチュさん



ヨハンナ・デングラーさん



ペーター・シュトルチーナ夫妻



レギーナ・シュトウンピゲスさん



ルドヴィヒ・ゴルヴィッツアーさん

◎通訳者



ラース・パウダーさん



山本久志くん



山本文保さん

◎見学先等でお世話になった方々



農業学校のランナー先生



環境リサイクル会社
のマッケンゼーさん



御者さん



マクドナルドの社長さん



ヴォルフラーツハウゼン郡病院のリガ先生



ブルガーベーカリーの方
(プレッツェル体験)



留学に来ていた大学生
右から2番目は
入間市在住の：土屋さん



ミュンヘン市場での
ガイドさん



ミュンヘンでの
パントマイム



ダッハウ強制収容所での
ガイドのエルケさん

◎ヴォルフラーツハウゼン市関係者



右 ヘルムート・フォルスター第一市長
左 ペーター・プレッセル第二市長



クリスティーネ・ノイッサー
第三市長



右 ガビー・マルシュナーさん
左 ヴォルフガング・ムッハさん

行 動 の 記 録

1 日 目 8 / 3 (火) 出 発

絹 山 寿 理 亜

時 刻	行 動	場 所	内 容
6:30 6:40	集 合 出 発	入 間 市 役 所 前	<p>朝早い中、入間市国際交流協会の会長をはじめ、市役所職員・そして、保護者の方々が見送りに来て下さいました。バスの中では、爆睡中の一平太と翼以外はみんなお喋り。男の子より女の子の方がパワーあるみたいです (笑)</p> 
12:25	離 陸	飛 行 機 内	<p>飛行機の中では、映画が見放題(^ ^)なんと日本ではまだ公開されていない映画が見られたのです！(その代わりに、英語で見るしかなかった)</p> <p>ルフトハンザの機内食はあまり美味しくないと聞いていたけれど、結構美味しかったですと思います(^o^)</p> <p>12 時間は思っていたほど長くはない！！</p> 
17:35	到 着	ミュンヘン 空 港	<p>ミュンヘン空港に着くやいなや、事件が発生(° 皿°)!! 菜水のカメラケースがない!!</p> <p>でも、その後無事に見つかりました(^ ^)</p>
19:30	到 着	フンプルブロ イホテル	<p>ここで歓迎会が開かれました。ドイツの子はみんな大人っぽい！そして、背が高い&足が長い！！</p> <p>レストランでは、また食事が出されました(^ ^;)</p> <p>本日(?)4度目の食事です(° 皿°;)もう、食べられないよ~(>_<)</p> 

時刻	行動	場所	内容
21:00	解散	ホストファミリー宅	各ホームステイ先へ・・・ ホストファミリーの家の大きさにびっくり！！ここに8泊も出来るのかと思うと、思わずにやけてしまいました（笑）

2日目 8月4日（水）市長訪問・環境学習・乗馬体験

北村 翼

時刻	行動	場所	内容
	起床 朝食	ホストファミリー宅	ドイツでの初めての朝！ 色んなパンを用意してくれておいしい！！
9:00	集合 表敬 訪問	市役所	<p>おー、これが市役所か～って入間の旗がある！！ 建物は入間市とは全然違いすごかった。 ここで初めてドイツの青少年とも会いました。</p> <p>中に入るとヘルムート・フォルスター第一市長が日本語でお出迎え！会議室の中に入るとこれまた日本と違い円卓になっていました。「ジュース飲んでいいよ」って</p> <p></p> <p>言ってくれたけど、みんな遠慮しちゃいました。日本人だからかな～？最後の日はみんな違ったみたいだけど（笑</p> <p></p>

時刻	行動	場所	内容
10:30	農業学校見学	農業学校	<p>ランナー先生のもとみんなでバイエルン伝統料理を作りました！</p> <p>料理をしながらドイツの青少年と仲良くなり、すごく楽しかったです。僕は仲良くなったPeerと一緒にスーパーバイザーとしてみんなを応援しながら遊んでいました（笑 ゴメン</p> 
14:00	見学	WGV リサイクル会社	<p>すごいゴミ！すごいにおい！すごいペンツ！</p> <p>ナミは匂いがきつくてかなりヤバかった…</p> <p>リサイクル会社のマッケンゼーさんの案内で施設を一周しました。まずはごみの分別!!やっぱりドイツも日本と同じで分別しない人もいるんだな～</p> <p>生ごみは土にされていくらしい。スゲー!!</p> <p>最後に施設の入りに車の重さを測る場所があってみんなで乗って見ましたが、誰かが「これ、体重ばれるんじゃない」と言った瞬間みんな一斉にそこから降りていました（笑</p> 

時刻	行動	場所	内容
16:00	乗馬	シルヒャ ホーフ	<p>ついにみんなが待ち望んでいた乗馬!!なんと乗馬+馬車!! とっても楽しかった~しかも、なんとその牧場には Jr. チャンピオンがいると聞いてみんなびっくり! サンドウィッチとジュースをもらってから乗馬!</p>  <p>馬車は思ったより速くてすごかった。それになんと公道を走っていて後ろにはちょっと（数台）した渋滞が…</p>
18:15	帰宅	ホスト ファミリー宅	<p>は~疲れたと思いながら家に帰ると… 昨日いなかったお兄ちゃんがいた——!! ん?となりのかわいい人は? お兄ちゃんの彼女だった!!</p> <p>少し休んでから夕食。急に Tsubasa! と呼ばれ「なに?」って聞くと「外で食べるか中で食べるかを決めていて2対2だからどっちがいい」って聞いてきた! もちろん外!!庭での夕食は美味しかった。そのあと Bluff というボードゲームをやりて盛り上がり、寝る前にも Basti, Leo, Franzl と一緒にマリカーをやりました。</p>
23:30	就寝		<p>ドイツでの2日目が終わった~!!明日も楽しむぞ~</p> 

時刻	行動	場所	内容
8:20	集合	ロイザッハ ホール	各ホストファミリーの送迎でロイザッハホールへ集合
8:30	出発	オーバーラ ンドへ遠足	<p>天気はあいにくの雨でしたが、アンマー橋を見学。皆が傘を持って移動していた上、見学できる場所も狭かったので、なかなか見づらかったのは残念。</p>   <p>バスで移動し、ヴィース教会を見学。後に行くこととなるペーター教会ほどは大きくなかったのですが、当時それを知らない僕達には十分大きく感じられました。</p>  <p>【ガラス製の案内板の裏でガッツポーズをする久志くん】</p> <p>その後バスに乗りノイシュバンシュタイン城の見学に。ところが、天気は朝方よりさらに悪くなり、土砂降りに変わってしまいました。予約をとってもらっていたと思っていたのですが、夏休み期間の為予約ができなかったとのことで、二時間以上並んで城の内部は見られるかどうかわからないということでした。皆で話し合った結果、ノイシュバンシュタイン城の見学は残念ながら断念することとなりました。僕は夏場だったのでシャツ一枚という服装だったのですが、非常に寒く、厚着のセーターやジャケットがあっても足りないのではないかと思うほどでした。</p>

時刻	行動	場所	内容
11:00頃	昼食	レストラン	<p>バスで少し移動して、近くのレストランで昼食。8月だと言うのにメインディッシュの前に出てきた暖かいココアが非常にありがたかったです。ココアの次にはサラダが出てきて、メインディッシュは肉類に付け合わせで酸味のあるポテト、という組み合わせで、割と食べる方の僕でも満腹になるくらいでした。それでもドイツの女の子の中には完食している子もいて驚きました。</p> 
13:00頃	自由行動 軽食	フュッセン レストラン	<p>フュッセンで街並みの見学や買物。</p> <p>その後、まだ昼食を食べたばかりなのに、もうティータイム。大きなケーキとコーヒーをいただいて、更に満腹になってしまいました。</p>  
14:00頃	見学	ロッテンブッフ教会	<p>ロッテンブッフ教会を見学。バス移動の時に隣の席になり、仲良くなったピアくんがロッテンブッフ教会について非常に詳しく説明してもらいました。また、その説明をしてもらうに併せて、ドイツの人の宗教観というのはどういうものなのか、ということについても教えていただくことができました。</p>

時刻	行動	場所	内容
19:00	夕食	マクドナルド	<p>ドイツのマクドナルドにて見学兼夕食。初め、少し怖い顔の社長さんがマクドナルドの歴史やフランチャイズ制とは何か、等々を説明して下さり、その後マクドナルドの裏側を見学させていただきました。肉の冷凍庫などは凄まじく寒かったです。次には、なんと実際にビッグマックを作らせてもらいました！物凄い速さが求められる作業なのですが、特に驚いたのはソースで、ソースを出す機械は一度握り締めると一定量出るように工夫されていて感心しました。ビッグマック作りの後は皆で夕食。好きなメニューを頼んで良いと言われたので皆さん沢山食べていました。出されたドリンクの中には「レッドブル5本分を濃縮した超レッドブル」なるものがあり、曰く飲んだ後9時間は寝られなくなってしまった人も居たようです。ちなみに、ドイツのビッグマックが日本と比べて大きいかということ、そういう訳でもなく、日本と同じサイズだったように思います。しかし、そこで使われる肉はなるべくドイツ産のものを使用するようにしており、また、ドイツでのオリジナルメニュー、そしてその店のオリジナルメニューというものも存在しているとのことでした。</p>
			
21:30	帰宅	ホストファミリー宅	<p>マクドナルド後は各ホームステイ先の迎えで皆帰宅。マクドナルドで沢山食べさせて頂いたのですが、非常に残念ではありましたが、ホームステイ宅でのみんなでの夕食はお断りさせて頂きました。ドイツでは空腹で床につくなんてことはありません。</p>

時刻	行動	場所	内容
朝	朝食	ホスト ファミリー宅	<p>昨日に引き続き、今日も雨です…。ううう(；_；)</p> <p>普通この時期は雨が降らないらしく、今年はおかしいらしい！ なんで今年に限って！(笑)</p> <p>パンと庭でとれたハーブで温かいミントティーを飲みました。</p>
8:45	集合	ヴォルフラーツハウゼン郡 病院	<p>なんと病院は家のほぼ目の前にあった！！ なので徒歩で病院に向かいます。</p>
9:15	見学		<p>リガー先生という方が、病院を色々と案内してくれました(^ ^)</p> <p>まず入ってみて、日本の病院よりも全体的に明るい感じを受けた！！</p> <p>この病院には200のベットがあり、6,000~7,000人の患者を預かっているとのこと。</p> <p>様々な部屋を見ながら先生の説明を聞く。病院ってハイテクな機械がたくさんそろっている！</p> <p>そして「ギプス室」へ。</p> <p>菜水ちゃんと翼くんが代表としてギプスを体験(^0^)</p> <p>菜水ちゃんが体験した腕のギプスは、一見普通の布なのに水に濡らすことによって発熱し、固まるというものだった！</p> <p>触ってみると確かに熱い(°o°)</p> <p>日本でも病院をこんなにじっくり見る機会はありませんので、良い経験になりました。</p> <p>(ちなみに菜水ちゃんは、そのギプスをお土産としてちゃんと日本に持って帰りました★)</p>



時刻	行動	場所	内容
10:30	見学	グレントライ テン野外博物 館	<p>昔の人々の生活を知ることができる博物館へ。</p> <p>最初は館内を見学！資料がいっぱいあったけれど、ドイツ語で読めず…(-.-)</p> <p>そして野外の家を見学する。広い敷地内には様々な家が建てられていた。</p> <p>どの家にも共通していた事だったけれども、天井は低くベッドは小さい等全体的に作りが小さかった。話によると、昔の人は小さかったらしい！！</p> <p>そこでクリスティーが笑いながら「このベッドは美智にピッタリだね」と一言。まあ、確かにそうだけど…(笑)</p>
昼	昼食	シュタケラー シュターデル	<p>野外博物館内にあるレストランで昼食。</p> <p>そして、食後に「Dampfnudel(ダンプ・ヌーデル)」という蒸しまんじゅう？のようなものをみんなで食べる。</p> <p>カスタードクリームみたいなソースがかかっているのが美味しかった(^0^)</p> <p>あまりの美味しさに、みんな激しくスプーンで突っつき、夢中で食べたため、隣の席の知らないお姉さんが笑って見ていた(^_^;))</p>
14:30 頃	鑑賞	ブーフハイム 美術館	<p>ロータル＝ギュンター・ブーフハイムが収集したコレクションが展示されている美術館。</p> <p>湖の近くなので、吹く風が冷たく感じられます。</p> <p>ドイツって夏でも、雨が降ると冬並みに寒いんだなー(・.・;))</p> <p>外側から見てみると、美術館自体が潜水艦の形をしていた！！おしゃれ。</p> <p>中に入ってみると、ブーフハイムによって集められたコレクションが所狭しと並んでいる。</p> <p>人物の版画のような作品もあれば、アフリカの原住民の人々が使っていたらしき仮面もあって、見ていて飽きなかった(^0^)</p> <p>特に気に入ったのが、サーカスをテーマにしたようなコーナー♡</p> <p>カラフルでとても可愛かった！</p>



時刻	行動	場所	内容
16:30頃	到着	ロイヤルホール駐車場	みんな一旦ホストファミリー宅へ帰宅。 予定より少し早くヴォ市へ到着してしまったため、図書館で久志君、翼君、じゅりちゃんと待機。 お父さーん、早く来てー！
17:00頃	夕食	ホストファミリー宅	コンサートに行く前に夜ご飯♪ 今日のメニューは、そうめんのような細い麺が入ったコンソメスープと、七面鳥のような大きなチキン！！ お母さんは本当に料理上手なんです (*^_^*) それにしても、七面鳥みたいなチキンなんて日本じゃクリスマスにしか食べる機会がないよー。 そのことをお父さんに言うと「じゃあ、今日はクリスマスだ！！」と笑う。 とても温かい食事で身も心も満たされました♡ 満腹、満腹。 ごちそうさまでした！！ ではではコンサートに行ってきます。
19:00	鑑賞	ロイヤルホール	再びみんな合流し、コンサートを鑑賞。 椅子に座って聞く、静かな感じのコンサートかと思っていたらぜんぜん違った！！ みんな立ち上がって踊りまくっていた(^0^) 私たちも、みんなと一緒に手をつないで踊ったり回ったりと大騒ぎしてしまいました♪ ドイツの子たちに負けまいと、一平太君がものすごく頑張って踊っていた。 さすが私たちのリーダーです！！(笑) ドイツの人はみんなノリが良く、とても楽しいコンサートだった!(^^)!
22:30頃	帰宅	ホストファミリー宅	お父さんが車で迎えに来てくれたので帰宅。
24:00頃	就寝		お風呂に入って就寝。 今日も盛りだくさんの一日でした。

時刻	行動	場所	内容
朝	起床 朝食	ホスト ファミリー宅	今日の朝は曇り。雨降りそう(汗)晴れますように！！
8:45	集合		ここ、こぢんまりしていて気に入った(^^)
	遊び	リッティヒ ・ヴィラ	一人ずつ仲間紹介が終わった後に、お魚パタパタゲーム開始！！魚の形をした紙をあおぎながら皿にのせるよ！日本チーム vs ドイツチームの結果は・・・ドイツチーム勝利！強い(>_<)
	体験	ブルガー ベーカリー	プレッツェルを焼く体験。生地を棒状にのばして、二回転ひねって、プレッツェルの形に仕上げます・・・って、ちょ、まって(笑)難しい！で、見回したらみんなも悪戦苦闘してた(^_^;)たくさんできたので、たくさん持って帰りました。カップケーキも食べることが出来て幸せ～！でもちょっとおなかいっぱい・・・
昼	遊び	ヴォルフラーツハウゼン 市内	『ヴォルフラーツハウゼン・ラリー！』 クイズを解きつつ、歴史ある古い小道や森の小道を散策しながらポイントへ。   ほぼ全員、団結感皆無(笑)！！ 結局、ポイントに行ってもキーワードが書いてある紙が見つからず・・・結局タイムオーバーで日本庭園へ。庭石の下や木の中に紙が隠してあった！それを繋げて読んでみると・・・。え？何て書いてあったって？ふふふ、秘密(^^)

時刻	行動	場所	内容
14:00頃	民族衣装体験	フィッシャ・プリューグルのお店	<p>バイエルの民族衣装を試着&撮影！みんな「何着ようかな」って選んでいるときの目が本当に真剣なの（笑） こういう服、原宿でも着てみたい！ ってか、 安達さんカワイイ～！</p> 
夕方	入間友好協会の夏祭り	図書館前広場	<p>浴衣を着用して夏祭りへ。ドイツの方々から、ものすごい視線を浴びました(^_^;)みんなで入間音頭を踊って騒ぎました！ ポール（久志君）のお父さんが作ってくれた焼きそばが美味しかった(^_^)</p> 
夜	帰宅	ホストファミリー宅	<p>その後、解散。おやすみなさい！！あ、スタッフ達はレストランで楽しそうに飲み会をしました。</p>

6日目 8/8 (日)

佐藤一平太のホストファミリーとの一日

時刻	行動	場所	内容
10:00	起床	ホストファミリー宅	いつもより遅い起床。丁度疲れが溜まっていた頃だったので、沢山眠れたのですっかり回復しました。
12:30	移動	リンダーホーフ城	<p>リンダーホーフ城に到着。</p>  <p>いきなり驚いたのは特に柵などもない場所を様々な動物が歩いていたこと。↑の画像は白鳥。(恐らく)ちなみに写真左下に写っているのは写真大好きなフォルカーさんのカメラとその手です。</p> <p>その後は城内を散策。沢山写真を撮りました。</p>  <p>それにしても、金ぴかの像たち(↑僕の丁度右)の間から水が噴き上げる姿はなかなか形容しがたい感想を抱かせるものです……。</p>

時刻	行動	場所	内容
14:30	昼食	レストラン	<p>なんと、一時的にオーストリアに入国！（ヨーロッパ二カ国目！）、オーストリアの伝統料理であるベリーグリュツェ（？）という料理とアルムドゥラというオーストリアではコーラの次にメジャーであるという飲み物をセットで頂いてきました。非常においしかったのですが、見た目以上に凄まじくお腹が一杯になる代物で、男の僕ですら完食できませんでした。しかし、そこはしっかりサービスが行き届いており、店員さんに頼むと、アルミホイールに入れて持って帰れるようにしてくれました。是非また食べたい！</p> 
17:30	移動	祭	<p>昼食の後は、しばらくのドライブの後アウグスブルグの伝統的なお祭りへ。この時間帯は雨が降っていたのですが、入り口でお母さん（ホストファミリー）のウィプケさんの知り合いの方に傘を借りることができました。</p> <p>このお祭りはドイツのかつて身分の差などがあった時代の衣装を皆が着るといふもので、会場の中心にある広場では騎士達が乗馬しながら戦い、その強さを競う劇を見せてくれました。その際、馬に乗りながら登場した人に見覚えのある人が…！？と思ったらそれは入り口で傘を貸してくれたウィプケさんの知り合いの方でした。何でもその馬の駆け布はウィプケさんが縫ったものであるということで、見ていてなんだか誇らしい気分になりました。</p>  <p>【こちらは貴族階級の中でも特に位の高い人の衣装です】</p> <p>その後は現地で作られているバウムクーヘンを頂いたり、夏のキャンプファイヤーの様なものをみたりなどなど、書ききれないほど沢山遊びました。</p>
23:00	帰宅	ホストファミリー宅	<p>すっかり楽しんで帰宅。朝から夜まで充実した一日でした。</p>

時刻	行動	場所	内容
13:30頃	昼食	ホストファミリー宅	<p>スワロフスキーの美術館から帰宅して、昼食。 今日の昼食のメニューはお母さん手作り(!)のピザ(^0^) ピザの上には、アンチョビ、オリーブ、ハム、チーズ、トウガラシなど具がたくさん乗っていた♡ 生地が薄く、パリパリしていてすごくおいしかった!! お腹いっぱいですー。</p>
14:30頃	サイクリング	ゲオルグスハウゼン市内	<p>お腹がいっぱいになった後はお母さんと3人で、サイクリングに(*^_^*) お父さんは家で昼食の洗いをしながら、お留守番(笑) 日本ではサイクリングをあまりしたことがなかったけれども、ドイツは自然が多いのでとても気持ち良かった。 ずっとサイクリングをしていたかったけど、まさかの雨が降ってきたので急いで帰宅(;0;)</p> 
15:30頃	帰宅	ホストファミリー宅	<p>なんとかあまり濡れずに帰宅!! 一休みするために、私たちが持ってきたお土産を食べる。 じゅりちゃんは八ツ橋と緑茶、私は鳩サブレをプレゼントしました♪ 気に入ってもらえるか不安だったけど、二人ともおいしいと言ってくれた(^v^) よかったよかった★ おしゃべりをしながらゆったりとした時間を過ごしました。</p>
16:30頃	準備	ホストファミリー宅	<p>今晚は多くの人を呼んでバーベキューをするため、準備のお手伝い。 お皿を並べたりと、頑張ってお手伝いをしました!(^^)! 早くお肉が食べたいよ~!</p> 

時刻	行動	場所	内容
18:00頃	夕食	ホストファミリー宅	<p>さっきまで雨が降っていたけれど、バーベキューを始める頃には止みました！</p> <p>庭ではお父さんが、がんばってお肉や魚を焼いています (*^_^*)</p>  <p>いいにおいがしてきた～！</p> <p>これが出来上がった料理。テーブルの上には、ソーセージや野菜などが並んでいた！</p> <p>おなかいっぱい食べました❀</p> 
21:00頃			<p>みんな食事を食べ終え、お客さんたちが帰って行った。</p> <p>色々な人たちとたくさんお話できたし、楽しい晚餐でした(^_^♪</p>
22:00頃			<p>リビングでお父さんたちとおしゃべりしながら、くつろぎタイム♡</p> <p>日本では近所の人たちを自分の庭に呼んで、バーベキューをすることはあまりない、と話したら驚いていた！</p> <p>だって、こんな広い庭を持っている人なんて、日本じゃあまりいないもん(笑)</p> 

6日目

8/8 (日)

田村恵里佳のホストファミリーとの1日

時刻	行動	場所	内容
朝	起床 朝食	ホスト ファミリー宅	いつもより少し遅めに起きて、朝ご飯。スモークサーモンが美味しかった！
	美術 鑑賞	モダン・ピ ナコテーク	お父さんに、ミュンヘンにあるモダン・ピナコテークに連れて行って貰いました。ここら辺、美術館が3つもかたまってるの！！すごい！！しかも日曜日だったから一人1ユーロで入場できるという素晴らしさ(・д・) ただし、残念ながら館内撮影厳禁！！葉のカプセルみたいなライトとか、木の枝みたいな USB とか、とにかくアイデアが凄い！ 工業デザインはもちろん、一階や二階には沢山の絵が飾ってあった・・・にしても、ここ広い！！ すこしの時間でしたが、良い経験をさせて貰いました。
昼	昼食	レストラン	sushi bar でお昼ご飯！でも、残念なことに、お寿司は午後6時から・・・ということで、私は春巻きを注文(・ω・) 久しぶりの中華、美味しかった～！！
	見学	リンダー ホーフ城	リンダーホーフ城へ。お母さんと Lille たちも合流して、出発！お茶してから、お城のツアーにも参加しました。 

時刻	行動	場所	内容
昼	見学	リンダー ホーフ城	 <p>このお城、ノイシュバンシュタイン城と同じく、ルートヴィッヒ2世が建てたんだって。お城の近くに、人工の洞窟があった！中に入ってみると・・・ぬおっっ（°▽°）ライトアップされてて超キレイ！！滝が流れてるし！！ 帰りにお父さんにお城のガイドブックを買ってもらいました！嬉しい(^^) </p>
夜	試合	サッカー スタジアム	<p>ハンバーガーを食べて、サッカースタジアムへ。 地元のサッカーチームの子達と試合をしたよ(^^) </p> <p>結局11-10で負けちゃったけど、みんな頑張った！キャプテン翼、大活躍！！レオ様かっこよかった！</p> 
	帰宅	ホスト ファミリー宅	汗びっしょり（笑）。 このあとホストファミリーと SOLO（UNO みたいなやつ）で盛り上がった(・▽・) おばあちゃん、強っっ！！二回も勝ってるよ・・・
	就寝		明日の体力温存のため、就寝。おやすみなさい(*^_^*)

6日目 8月8日(日)

川畑菜水と西永みなみと金子美桜と北村翼のホストファミリーとの1日

時刻	行動	場所	内容
9:00	起床 朝食	ホスト ファミリー宅	今日は休日なので長く寝ていていいよといわれて長く寝ることができました(^ ^)ドイツの朝ご飯は土日がちょっぴりリッチ?なパンになるそうで、おいしかったです><♪パンの切り方も教えてもらいました。
10:30	集合	カフェがある街中	今日は三家族が行動をともにすることに! けっこうな大人数ですごく盛り上がっています(・・*)ノ♪街の中には古い絵がいたるところの建物にかかれていて美しいでしょ? 珍しいでしょ? と家族の人に聞かれてほ~という感じでした。 
11:30	山登り	Brauneck	山に登りましたー! 正確に言うとは登ったというより平地を30分くらいウォーキングしたという感じなのですが(・・); 汗というの、10分くらい4人乗りのゴンドラに揺られてビクビクしながら山の上に無事についたから(≧v≦)」 山に着くまでは高度のせいなのか耳が飛行機に乗っている時みたいに痛くなりました(:;)でも眺めは最高!!! 牛さんがたくさん放し飼いされていました。  【ゴンドラから眺めです】

時刻	行動	場所	内容
14:00	昼食	山頂 レストラン	今何時～？なんていいつつ時計を見たらもう14時！！？？ 各自お気に入りのメニューを注文し待つこと30分くらい。わーい♪いただきます><。 山の上の天気は変わりやすいのなんのって、突然の雨もあったり、急にきれいな青空になったり、雲の動きもすごくはやい(ω)Σ 調子に乗って牛さんに嫌がられながらも peer に撮ってもらいました。
15:30	下山	ゴンドラ	山の天気はこの後荒れてゴンドラも揺れるし雷はなるしで怖がるみおが見れてかわいかった♥レア (///>v<)
17:30	到着	ホスト ファミリー宅	いったん、それぞれがホストファミリー宅に帰宅し、私は美桜と菜水がいるシュテフィーのお宅にトビスとリサと一緒におじゃましてテレビゲームでもりあがり、you-tube をみたりと、かなーりまったり過ごし、翼くんはなんとボーリングに(ー-μ)。。。。
19:00	集合	イザール ロイザッハ スタジアム	少女サッカーチームとの交流！それにしてもみんなかわいいし、サッカーのチームプレーは必見！とくにパスがすごい声が出ていてフムフムと思いました。 もちろん、こちらの青少年も負けてはいられないので頑張りました！とくに翼くんはうまかったね。あとはドイツの青少年はうまいし、プレーの姿も様になっていて。。(><)♪久しぶりに(笑) すごくいい汗を流しました。
20:30	帰宅	ホスト ファミリー宅	さあ、夕飯♥いただきまーす！！!(: :) ノシ
23:00	就寝		



時刻	行動	場所	内容
8:15	集合	ゲルファーツ ハウン駅	<p>バスに乗り、駅のホームへ。入口には何もなくて、開放的な駅でした。ホームには携帯電話のプリペイドカードが売ってたりして。</p> 
8:24	駅発 (電車)	車中	 <p>線路沿いには木々が並んでいて、晴れているのもあって、とても気持ちのいい朝でした！電車内は向かい合う型の席でした。ドアの閉まり方が少し乱暴…な気がしました。あと発車が速い！このまま皆で談笑しながらミュンヘンへ。とても快適な電車でした！</p> <p>あっという間に着いた気がしました～</p> <p>日本の電車より乗りやすいかも？</p> 
9:15	見学	ミュンヘン・ペーター教会	 <p>←【ペーター教会の頂上から見た新市庁舎】</p> <p>約 300 段の階段を皆で一段一段踏みしめ、その先に見えた景色はまさに絶景でした…</p> <p>ミュンヘンの町並みは、赤い屋根と黒い屋根。美しい街並みはまさにヨーロッパ！</p> <p>この景色だけでお腹いっぱいでした～</p>

時刻	行動	場所	内容
9:15	見学	ペーター教会	 <p data-bbox="863 696 1203 730">【別の角度から見たところ】</p>
11:00	見学 試食	食品市場	<p data-bbox="655 757 919 846">食品市場にてマーケットツアー。</p> <p data-bbox="655 869 919 1021">食品に限らず沢山のものが売っているマーケットでした。</p> <p data-bbox="655 1043 919 1077">そこでチーズやハムやプレッツェルの試食をしたり、数種類のフルーツを試食させてもらったりしました～!美味しかったですよ!</p> <p data-bbox="655 1211 1406 1368">ジュースのお店とかもあったけど、それはまた今度…ガイドの方の説明を訳してくれたポール(久志君)ありがとう!!</p> <p data-bbox="655 1391 967 1480">見つけた看板、日本語がそのままです(笑)</p> <p data-bbox="655 1503 967 1592">次に来たら食べたいなこのスープ…</p>    <p data-bbox="1110 1771 1414 1917">皆で記念撮影! なぜかほぼ全員キメ顔^^;また来たいです。</p>

時刻	行動	場所	内容
14:20 過ぎ	見学	見学・買物	<p data-bbox="655 264 938 416">外から見たアリーナツ・アリーナキックタワー。</p>  <p data-bbox="655 439 938 645">実はこのスタジアムはその時の試合によって赤・青・白などに変わるそうです。</p> <p data-bbox="655 667 1414 763">FC バイエルンの時などは赤になり、25,344 個の灯りで照らすそうです！凄い！</p> <p data-bbox="655 786 1334 819">観客席には 69,000 人が入ることができるそうです。</p> <p data-bbox="655 842 906 1167">選手の控室にて、ボールを蹴って穴に入れる練習をさせていただきました。これがなかなか難しい； 男性陣は</p>  <p data-bbox="655 1189 1414 1285">さすがに上手ですね～。選手の気分を少しだけ味わうことができました！</p>  <p data-bbox="655 1939 1289 2036">スタジアムの様子。声がとてもよく響きます。皆で「ゴール!!」と叫んでみました。</p>

時刻	行動	場所	内容
15:10 過ぎ	自由 行動 買物 ・ 観光	ミュンヘン 市内	<p>マリエンプラッツ広場の様子です！</p>  <p>ユニークな噴水がカワイイです♥</p> <p>先程のアリーナ見学が長引いてしまい、ミュンヘンの観光はわずか1時間半(-“-) 短い時間でもとっても楽しめました！私は砂時計を買いたかったのですが、なかなか見つからず…</p> <p>シュテフィーと一緒にお店を回り、5軒目あたりでようやく購入することができました^^</p> <p>アイスクリームも美味しかったなあ…</p> <p>売ってる水が大体炭酸水という(*_*) 炭酸水が苦手な私はここでやっと日本の麦茶が恋しくなるという事態に陥りました(笑)</p> <p>それにしても歩いているだけで楽しい街並みでした。</p>
夕方	帰宅	ホスト ファミリー宅	<p>色々な出来事があった一日も終わり、帰る時。</p>  <p>なんと線路の上を歩いて帰りましたー！</p> <p>なんでも週一くらいしか電車が通らないから大丈夫だとか。ここぞとばかりに線路の写真を撮ったり、スタンドバイミーを思い出したり。なかなか貴重な体験ですな！</p> <p>皆でミュンヘンの話をしながら帰宅。</p> <p>夜はテレビゲームをしたりして^^</p>

時刻	行動	場所	内容
8:30	起床 朝食	ホスト ファミリー宅	朝にシャワーを浴びて身支度をして、家族と朝食！朝から大忙しであたふた（・・・）； 
9:30	集合	ロイザッハ ホール駐車場	わあーい♪今日は大きな観光バスだ（▽）バスではヴォ市の青少年と入間市の青少年でいろいろ話すことができ、有意義な時間を過ごせました。
11:00	見学	ダッハウ 強制収容所	バスの中での和やかな雰囲気から一転して、ダッハウの見学はみんな真剣な表情でした。珍しく猛暑の中でしたがドイツの悲しい歴史の強制収容所について学べてよかったです。  多いときには一つの小屋に約30カ国、1,200人もの人が収容されていたそうです。この日、二度と繰り返してはいけ  ない、そして忘れてはいけ ない歴史を目の当たりにしました。 ←【シャワー室と思われ、実はガス毒殺室】

時刻	行動	場所	内容
14:00	昼食	スーパー マーケット	<p>予定を30分もオーバーして昼食・・・。ドイツの人という と時間がゆーったりしているな（汗）。</p> <p>場所も、決まなくてバーガーキング、マクドナルド、ビ アガーデンの三択・・・。決まっていんかいっ（▽○）Σと ツッコミつつも、多数決？でビアガーデンに到着っ！</p> <p>・・・シーン。お店やっていなかったのです（泣）スタスタ 前を歩いて行くヴォ市の方が遠くなっていく。立ち止まった先 はスーパー。り・・・臨機応変すぎます（・・・）；</p> <p>無事、スーパーで昼食もとれ たし、時間を変更してもらって 買い物もできて一石二鳥でし た！子供用のカートをおす私。 そんな私を撮るみちさん（笑）</p>  <p>お土産がたくさん買えました（〇^^）！</p>
17:00	到着	ヴォ市	<p>いったん、それぞれがホストファミリー宅に帰宅し、お別れ 会の支度をしました。</p>
18:00 19:00	集合 開催	ヴィルト ハウス	<p>浴衣に着替えて、お土産を集めて・・・。</p> <p>お別れ会のはじまり、はじ まり・・・。とっても楽しく 進行できました♪</p> <p>初めて、お世話になった多 くの方々の前でドイツ語のス ピーチを披露しました（照）。（みおとともに♥）準備していっ た入間音頭も茶摘みの歌もヴォ市の人と一緒に楽しむことがで きました♪すっごく盛り上がったのはうれしかったけれど・・・。</p> <p>みんなと明日にお別れするなんて信じられないなあ（；へ；） 本当にさみしくなっちゃうなあ・・・（/；；）！</p> 
22:00 23:00	帰宅 就寝	ホスト ファミリー宅	<p>荷作りをしたのち、ドイツ最後の夜をかみしめながら？就寝 しました。</p>

時刻	行動	場所	内容
朝	起床 朝食	ホスト ファミリー宅	
	集合	マリエン プラッツ	ホストファミリーの皆さんの送迎で集合場所へ。もうこの車に乗ることもないんだな…としみじみ。。
	買物	市内	最後のお買物タイム！みんな、買い残し、食べ残しが無いように必死だった(笑)
	お別れ	市役所	市長さんが最後のお別れに市役所に招いてくれました。2日目に表敬訪問したときのことが、もう遠い昔みたい、、、もう帰る日なんてうそみたい。市長さん、万燈まつりでお待ちしています！ 
11:00頃	出発	ゲオルクツハウゼン市	<p>いよいよみんなとお別れ。ホントいい人たちだった！！ホントいい町だった！！</p> <p>パスポート捨てちゃおう作戦は果たせず…</p> <p>みんな、絶対また行こうね！バスに荷物を積んでお見送り組と一緒にミュンヘン空港まで。</p>  

時刻	行動	場所	内容
12:00	到着	ミュンヘン 空港	<p>荷物を預けた。んだけど、重量オーバーでみんな荷物をあけ始める(^^;) てっちゃんと近藤さんはオーバーで支払いに…お疲れ様でした。</p> 
昼	昼食	空港の レストラン	<p>お昼になったので、みんなでレストランに。これが意外と手強い、、量がハンパない… 青少年男子チームもお手上げ(笑)</p> 
	お別れ 2	ゲート前	<p>あっという間に過ぎた今回の滞在。 すごく名残惜しくて、みんなホロリ。。 ホント帰りたくなかった(´`) もっとみんなと一緒にいたかったな、、 また絶対遊びに行く！万燈まつりで待ってるね！ みんな、ほんっつとにありがとう！！</p>  <p style="text-align: right;">←(笑)</p>

時刻	行動	場所	内容
15:45	搭乗 着席 離陸	機内	<p>機内では、みんなそれぞれ自由に。映画みたり、爆睡したり、勉強したり。</p> <p>みんなお昼の強敵がまだ残っていて、機内食に悪戦苦闘！</p> <p>食べ終わったあとは、私が爆睡していたため、様子がわかりません(´д`)笑</p>    
夜	就寝	機内	<p>私は、昼夜を問わず、いつでも寝ていたのですが(笑)</p> <p>みんな、夜になり就寝へ。機内はまっくら。少し寒かったかな。みんなはどうかわからないけど、、</p> <p>私は超ぐっすり寝ました！</p>
朝		機内	<p>気づけば朝食。これを食べたらもうすぐ日本なんだなあ、、としみじみ。徐々に現実に引き戻されていく…</p> <p>あー、ドイツに帰りたいよっ！！</p>

最終日 8月12日(木) 帰国

絹山 寿理亜

時刻	行動	場所	内容
朝		機内	<p>機内では、疲れていたためかほとんど寝ていました。 機内食では、久しぶりの白いご飯！ やっぱりお米は美味しい (´`)</p> 
10:15	着陸	成田空港	 <p>日本に帰国。むっ蒸し暑い(; A;) 気温は 29℃。ドイツでも 30℃くらいのときがあったけれど、湿気がなくカラッとしていたため、日本のほうが暑く感じる (>_<)</p>
15:00頃	到着	入間市役所	<p>お忙しい&暑い中、市役所の皆さん、保護者の方にお出迎えしていただきました。</p>  <p>今回この派遣事業を実行するにあたって協力していただいた皆様には感謝の気持ちでいっぱいです！本当にありがとうございました！！ またみんなでドイツに行こうねー！！</p>

貴重な体験 in ヴォルフラーツハウゼン市

佐藤 一平太

僕は海外に行った経験が二回あります。一回目はアメリカのラスベガスで家族で行ったものであったから大きな自分が主体になるものではありませんでした。二回目も高校の友人との卒業旅行でしたが、行先はハワイで日本語が通じてしまうところでした。だから、もちろんヨーロッパは初めてであるし、他の派遣団員と一緒にあっても、ホームステイ先では一人であるし、などなど、出発前は期待ももちろんあったのですが、それよりも不安が圧倒的に上回っているという心境でした。

ドイツに到着すると、バスで迎えが来ていました。本当はバスの中から景色を堪能したかったのですが、飛行機での疲れもあって、すぐに寝入ってしまいました。その後目覚めると既に歓迎パーティーの会場に到着していて、心の準備も出来ぬまま会場に入っていたのを覚えています。

テーブルに着くと、ホストファミリーの家主であるフォルカーさんと娘のソフィアと対面。フォルカーさんは身長が197cm程もある方で、ソフィアも英語がとても堪能で初めはとても戸惑ってしまいました。また、自分の英語の能力も十分であるとは言えず、意志を伝えられませんでした。



しかし、二人とも僕の下手な英語を熱心に聞き取ろうと努力をしてくれ、また僕でも理解できる単語を分かりやすい発音で何度も繰り返してくれたので、徐々にコミュニケーションをとることができるようになっていくことができ、嬉しく思いました。

食事の後は車に乗せて頂き、フォルカーさんの自宅へ。家に着くと、妻のウィプケさんと犬のユウカンとミカに出会いました。「お世話になった方々」の項目では、フォルカーさん、ウィプケさん、ソフィアの三人しか載せてはいないのですが、ユウカンもミカも大切な家族の一員であるから、本当は5人家族であると僕は今になって思います。

まずはドイツについて驚いたことと言えば、天候の違いです。日本は半袖半ズボンで、陽の当たらない場所においても、汗をかいてしまうというのに、ドイツでは、一番寒い日に至ってはホームステイ宅で暖炉を焚いて頂く程でした。流石に、これはドイツでも毎年あることと言うわけではなく、今年が特別であるとのことでした。

次に驚いたことは緑の多さ。日本よりも緑が多いのは確かなのですが、それ以上に「街の中に緑がある」というより、「緑の中に街がある」という感覚に驚かされました。このあたりは庭園管理指導者の方達が述べていらっしゃったように、日本とドイツの木々に対する考え方の違いというものも関わっているのではないかと思います。

ドイツでの日々は、日本のように1分単位で区切られているようなものではなく、良い意味でも悪い意味でも大雑把だったように思います。予定通り行かないことも多々あったのですが、その分空いた時間をゆったりとした食事の時間に費やしたり、ホストファミリーと過ごす時間に急遽変更したり、などなど、ともかく日本とは異なる感覚であったのは間違いありません。

もちろん、今回の訪問は「異文化体験」であり、ドイツの様々な建造物や歴史などを体験することは十二分に達成できたと僕自身も思います。しかし、それだけでなく、今回の訪問で得た最大のものというのは、ホームステイ先の方々や、市の関係者の方々、それにホームステイ先の息子・娘さんの友達との個人と個人の繋がりをこの短期間で大きく深めることができた、という点であるように思います。十日間という短い期間の中でこれほど別れが惜しいかけがえのない友達を何人も作る経験ができたのは、今回の入間市とヴォルフラーツハウゼン市との交流プロジェクトのおかげに他なりません。

余談ではありますが、今回の派遣事業に際して、僕が大学で参加しているサークルのイベントと日程が重なってしまい、先輩に対しサークルの方のイベントを欠席する旨を伝えたのですが、その時に「僕は入間市という市に住んでいるのですが、その市のドイツとの異文化体験事業というのに参加するので、イベント



は欠席させていただきます」と僕が言ったところ、「へえ、入間って言うとアウトレットがあるイメージしかなかったのだけど、そんなこともやっているのか。」と感心されたということがありました。このように自分たちだけに留まらず、他の自分の周りの人たちにも入間市やドイツのことを伝える機会が増え、これもまた別の意味での国際交流と言えるのではないかと思います。

この異文化体験は実際の活動期間こそ10日というものですが、それだけの意味に留まらず、準備期間の楽しみや派遣期間後のインターネットを通じてのドイツの仲間との交流などなど、それ以上の繋がりをもたらしてくれたものでした。この素敵な体験に感謝すると共に、このような貴重な機会を設けてくださった全ての方にお礼を申し上げたいと心から思います。ありがとうございました。



姉妹都市訪問を終えて

堅田 美智

「入間市はドイツのヴォルフラーツハウゼンという市と姉妹都市の関係を結んでいる」。私が自分の市の姉妹都市の存在を初めて知ったのは、小学校の授業だった。ちょっと言いにくくて、覚えづらい、けれどもどこか魅力的な響きを持つ市の名前に、当時小学生だった私は大変強い関心を持った。そしてその後も、ドイツに対して長い間憧れを抱いており、大学に入学してからその思いはさらに強まった。ヴォルフラーツハウゼン市に行くということは、まさに私の夢だったのである。

日本を飛び立ち、飛行機に乗ること約12時間。この長さが、日本とドイツの遠さを改めて感じさせたように思う。飛行機の窓から見える景色はどこまでも緑が続き、ヨーロッパ、そしてドイツの自然の広大さを見て取ることができた。初めての海外旅行、さらには全く知らない方の家でお世話になる、ということに私は少しの不安と大きな期待を持っていた。しかし空港につきドイツの方々の歓迎を受けると、ついさっきまで胸の中にあった不安はすぐに消えた。現地の方々のにこやかな笑顔、日本とは全く違う爽やかな気候に、私は安心感すら覚えた。そうして私は今回の訪問が、生涯忘れる事のない貴重な経験となることをこの時に確信したのである。

ヴォルフラーツハウゼン市で行われたプログラムはどれも手が込んでおり、市の方々がこの事業に非常に力を注いでくださったことが感じられた。私たち訪問団員もその思いに応えるべく、一生懸命それぞれのプログラムに参加できたのではないだろうか。

どのプログラムをとってみても、大変楽しく良い経験となったと思えるが、特に印象に残ったのはヴォルフラーツハウゼンラリーの際に、入間市によって作られた友好日本庭園を見たことである。プログラムには友好日本庭園での剪定作業なども組み込まれていたが、天候不順で中止になってしまったため、実際に庭園を目にしたのはその日が初めてであった。庭園は、ヨーロッパ特有の日本とは全く異なる町並みに囲まれていたにもかかわらず、不思議とその光景は私の目にすんなりと入ってきた。全く違う文化が一つの場所に存在しているのに、なぜこんなにも調和しているのだろうか、と疑問を覚えたほどであった。そして私は「ヴォルフラーツハウゼンの市民の方々が、この庭園を入間市とヴォルフラーツハウゼンの友好の懸け橋として、大切に思ってくさっているか

らではないだろうか」という考えに辿り着いたのである。庭師の方々も言っていたように、異国の文化の庭の手入れというものは骨の折れる大変な仕事であろう。あのようきれいな状態を維持するためには、「入間市という姉妹都市を思う心」がなければ到底できないのではないかと考える。そのような市民の方々の思いが形になって表れているのを実際に肌で感じ、「ただお互いに言葉を交わすのだけが、異文化交流ではない。このような小さな庭であっても異文化交流をすることは可能なのだ」という新たな発見を得たのだった。

冒頭で「ドイツに行くことが長年の夢であった」と書いたが、今回の訪問は様々な信じられない程の素晴らしい経験を「夢」ではなく「現実」として私に与えてくれた。今まで日本国内から出たことのなかった私は、日本の外にはこんなに異なった世界があるのだという、自分の視野を広げる良いチャンスとなった。またそれと同時に、ドイツに行くまでは気づくことのできなかった、日本の良さも改めて感じる事ができた。「外国を知り、心から好きになるためには自分の国である日本のことをさらに知り、好きにならなければならない」ということを痛感したのである。本当に様々な面において、私という人間を大きくしてくれた訪問であった。そうであるからこそこの経験を無駄にせず、一人でも多くの人に「入間市はこんなに素晴らしい市と姉妹都市の関係を結んでいるのだ」と伝えていきたい。一見小さなことのように思われるかもしれないが、そのように地道な積み重ねが入間市のさらなる発展につながると、私は信じている。行って終りにするのではなく、行った後が大事であるということをも自分に言い聞かせて、今後の活動に取り組んでいきたい。

最後になってしまったが、この事業に携わってくれたすべての方々に感謝したいと思います。



Vielen Dank!!

この事業を通して思ったこと

田村 恵里佳

8月3日。ルフトハンザ空港715便の中で、私は不安と期待で胸が一杯で、若干押しつぶされそうでした。ドイツへの渡航は、今回で二度目。しかし、観光目的で訪れた前回とはわけが違います。超がつくほどの人見知りである私にとって、「ホームステイ」というものは、この言葉以上に重みがあるものだと感じていました。

しかし、歓迎会でホストファミリーと初めて会った時、彼らが積極的に話してくれて、本当に嬉しかったのを覚えています。あまり英語が話せない私でも、ジェスチャーや相手の目線、雰囲気で大体はコミュニケーションがとれました。

私がドイツに行って、まず感じたことがあります。一つ目は、ドイツの人は皆、どこか心に余裕を持ちあわせているように感じたことです。この余裕が、国全体に漂う美しい雰囲気を作り出しているように思います。そして二つ目は、ミュンヘンに行った時に感じたことなのですが、都会であるにも関わらず、都会特有の無機質さが存在していなかったことです。東京と違い、ミュンヘンの空気は山の空気の匂いがして、空の色も都会の空の色ではありませんでした。

私を受け入れて下さったホストファミリーの方々は皆本当によい人でした。特にBellaとは学校の話や日常生活についての話など、たくさん喋りま



した。好きな洋楽のアーティストが同じだったので、Lilleから音楽プレイヤーを借りて、車の中でみんなで聴いたりしていました。

ヴォ市滞在中は、日常における些細なことでも美しく感じられました。例えば、朝起きた時に、お日さまがキラキラしていたりすると、「今日も素晴らしい1日になると良いなあ」と、とてもわくわくしました。

ヴォ市滞在中に美術館に行く機会があったのですが、その経験は私に大きな影響を与えてくれました。今までモネやルノアールといった印象派を好んでいた私にとって、繊細な心を大胆な画法で映し出す「表現派」との出会いは、とても新鮮でした。日本ではなかなかみられない様な、アール・ヌーボーを取り入れたモダンアートも



鑑賞でき、とても満足でした。驚いたのは、私の行ったモダン・ピナコテークという美術館は、日曜日は一人1ユーロで入ることが出来るということです。日本では通常、そこまで安い金額で入れないので、美術館に行きたくても我慢してしまう場合だって少なくありません。「より多くの人に芸術に触れてほしい」という心が伝わってくるようでした。

また、私達は2日目にゴミ処理場を見学させて貰ったのですが、正直、匂いが本当にきつかったです。しかし、それ以上に感じたのは、ゴミ処理場で働いている人たちへの敬意でした。そこで働いている人達は、激しい匂いの中で黙々と作業をしていました。このような仕事は、少なくとも日本ではあまり進んでやる人はいないように思えます。しかし、人間が出したゴミは、人間以外に誰が責任を持って処理出来るというのでしょうか。私はこの見学を通して、「将来、人が嫌がるような事、あまり皆が進んでやらないような事をしたい」と思うようになりました。

8日目に、ダッハウ強制収容所に行ったのですが、予想通り、空気が重いというか、息苦しいというか、非常に収容所で暮らしていた方々の感情がひしひしと伝わってくるようでした。このような裏側も目を逸らさずしっかりと見つめることは本当に大切だと思います。観光目的ではないので、「綺麗」「可愛い」といった感想だけでは済まされない。このような貴重な機会を設けて下さったことに感謝しています。

ダッハウ強制収容所から帰る時、Lilleと自分の思ったことを話し合いました。今でも若干後悔しているのは、自分の思っていることを十分に英語で伝える事が出来なかった事です。「あなたはどうか？」と意見を求められても、「私は…」

と、途中で言葉に詰まってしまう。自分の語学力のなさを痛感しました。と同時に、英語とドイツ語をもっと学んでから、もう一度ドイツに行きたいとも思いました。

10日間という長いようで短い期間でしたが、私にとってとても大きな影響を与えてくれたのは言うまでもありません。ガイドブックで文字や写真として情報を得るより、こうやって肌で感じた方が断然、多くのものを学びとれます。本当はもっともっと書きたいことがたくさんあるのですが、それは私の心の中にしまっておくことにします。この事業に関わるすべての皆様、本当にありがとうございました！

…余談ですが、この派遣事業の面接の時に、面接官の方と「国際理解は、妥協が先か理解が先か」ということについて話し合ったのですが、面接官の方がおっしゃった通り、理解が先なのかもしれないと、今回の派遣事業を通して思えてきました。…ああ、この文章、面接官の方に読んでもらえるといいなあ…



西欧の地で

川畑 菜水

最初は不安だったドイツへの旅。

飛行機の中では、「ちゃんと英語話せるかな…？」という気持ちでいっぱいでした。でも、現地に着いて、ホストファミリーの皆様が迎えに来てくれた時、その不安が消えて行くのが実感できました。

ヴォルフラーツハウゼンのその緑の映える美しい街並みと、そこに生きる人々は、今回の旅の意味を教えてくれたようでした。その地には心優しく、言語を超えて通じる心があったのでした。

ドイツでは様々な経験、体験をして参りました。例えば英語を話すこと。それは本当に貴重な体験だったと思っています。なにより印象に残っていたのは、ホストファミリーの皆様のことです。特にそのお姉さんと、その友達は、10日間の短い日々に美しい彩りを与えてくれました。

あいにく私はドイツ語を話すことはあまりできませんでしたが、私のつたない英語でも、解ろうとしてくれる。理解しようとしてくれる。それがとても嬉しかったです…。

心が通じ合ことは素晴らしいことだな、そう感じました。最初は緊張していても、段々と打ち解けて、そうして世界は広がっていくようでした。異文化との交流の本質的なところはここにあったのかもしれない。

様々な国の言語が飛び交うミュンヘンの街中。日本には無いようなりサイクル工場。ロイザッハホールでのコンサート鑑賞。プレッツェル作り。夏祭り。サッカースタジアム見学。そして歴史を物語るダッハウの強制収容所。どれも私の中にとっても印象的に残りました。いずれも日本では決して体験できないすばらしいものばかりでした。

その中でも私の学習テーマである「環境に配慮した街づくり」に関してはとても学べたことが多かったように思えます。



自然を切り裂くのではなく、地形に沿って作られた道。窓や道にもプランターがあり、花が覗いています。木々は愛され、手入れが行き届いており、日光に輝いていました。自然に対する心がけの日本との違いに驚かされました。また、リサイクル工場では生ごみなどを発酵させ有機肥料を生産し、農業者に無償で配布されている、ということにも驚きました。日本ではなかなか有機肥料にする、という例も少ないのにそれを無償で配布するというのは考えられないことです。さすが、環境大国ドイツだなあ…と思いました。ですが、一番大切なことはやはり自然を愛する心だと思います。

この8泊10日という短い期間のホームステイでしたが、ホストファミリーの皆様との絆は十分に深めることができましたと思っています。今回の姉妹都市ヴォルフラーツハウゼンとの交流は自分的には大成功だと思っています！遠く離れた入間市との心の交流。それが本当の意味での姉妹都市としての交流です。ドイツに学ばなければならないことは沢山あるのです。双方の良いところを理解し合い、笑顔で握手出来た時、それが心が通い合う瞬間なのだと思います。

日が落ちるのが遅いのに、毎日が飛ぶように過ぎ去っていった10日間。そこでできた思い出は何事にも代え難い、かけがえのない宝物です。日本の事を本当に良く知ってくれていたお姉さん。私ももっとドイツの事を知っておきたかったです。いつか、またドイツに行く時は少しドイツ語も喋れるようになっていたらなあ、と考えています。この西欧の地で見たすばらしい光景は、生涯決して忘れることはないでしょう。この思い出が、これからの日本とドイツの友好関係に少しでも役立つものになれば、本当に幸いです。



ドイツという日本とはある意味正反対の文化を持つ国で、私は隠れていた日本の良さも何か見つけられたような気がしました。ヴォルフラーツハウゼンで出会った方々、入間市の方々、派遣団員の皆。すべてに感謝しています！

ありがとうございました！またいつか訪れるまで…

わたし in ドイツ。

西永 みなみ

「わぁ・・・外国に来たんだ私！」とミュンヘン空港に着くなり興奮する私・・・。バスに揺られてヴォルフラーツハウゼン市に到着。そのころには完全に疲れ切ってしまった私はバッテリー切れ。でも、そんな私を温かく迎えてくれたホストファミリーとの毎日には笑顔が満ち溢れていました。中でもホストブラザーを中心に日本のこと、私の生活について積極的に聞いてくれて交流を楽しむことができました。

ホストマザーは常に私のことを気にかけてくれて、食べるものから入浴の時間から何から何までいたれりつくせりで本当に感激しました。毎朝の集合場所への送迎も街中のお店の説明をしてくれたり、パトカーを教えてくれたりと毎日いろいろな発見がありました。夜には、でっかいSONYのテレビでデジタルカメラの画像をスライドショーして、ホストファミリーみんなと一日を振り返っていました。また、他の団員が泊まるホストファミリーの家の人とも日本では考えることができないくらいフレンドリーに交流ができました。

英語を使つての交流ということで、不安や緊張もありましたが、そんなのは初めだけ。二日目、三日目からは自分から「あれは、なあに？」と積極的に話しかけることができたのでほっとしました。帰国するまでには、入間市の青少年もヴォルフラーツハウゼン市の青少年も相手の母国語である、ドイツ語・日本語で簡単な自己紹介ができるようになっていました。



見学で一つ深く感じたことがありました。それは、教会や強制収容所などで、私を含め多くの人（一般の人も）が写真を撮っただけでじっくり見学していなかったのではないかという反省でした。これはどんな観光地でもいえることですが、写真をパシャパシャとることだけで見た気に、わかった気になってしまっていたのかもしれない。これからは、そういう疑問が自分の中にわいてこないくらい深く見学したいと強く思いました。

日本の青少年同士も、初めて会ったときには考えられなかったくらい、帰国時にはずーっと昔から友達だったかのような絆を築いていたように思います。

困ったことがあったときには助け合えたり、楽しいことは一緒に笑いあって良い思い出がたくさんできました！印象的だったのは、夏祭りでの話なのですが、浴衣を着てみたいというヴォルフラーツハウゼン市の青少年の声を聞いて、みんながみんな自分の浴衣を貸そ



うという協力体制で着付けをしてあげることができたというエピソードです。向こうの人に浴衣を知ってもらうことができたし、日本の服装の文化について興味を持ってもらうことができました。

逆に、私たちも彼らの民族衣装であるバイエルンの衣装を着るという貴重な体験ができました。日本にいたら絶対にできないことだったので、すごくうれしかったです。地方紙の記者の方もお店に来て私たちの写真をとってくれました。(記事にもなりました。)



Wir lieben Germany ☺

一生の思い出

金子 美桜

ドイツ、ヴォルフラーツハウゼン市での滞在は、初めての連続で、十日間という日々はあっという間に過ぎていきました。ドイツの方々はどうなともみなさんとても優しく、私にとってかけがえのない存在となりました。そして、ここでの思い出は、一生忘れることのない、大切な宝物となりました。

今回が初めての海外で、初めての飛行機ということもあり、行く前は、飛行機でちゃんと寝られるのか、時差ぼけはしないだろうかという心配ばかりしていました。でも、実際はそんな心配なんか骨折り損のくたびれ儲けってぐらいの爆睡で、みんなから「眠りの女王」の称号もいただきました。

また、ヴォルフラーツハウゼン市に着き、いよいよホストファミリーのお宅に行くとなったところで、「ここからは本当に自分の力だけでやっていかないといけないんだ」と思い、自分の乏しい英語力で本当に大丈夫なのかと、急に不安を感じました。しかし、ハーザー一家のみなさんはとても優しく、私の英語が通じなかったときは、わかるまで辛抱強くまっけてくれたり、ハーザーさんの英語が私に通じなかったら、日本語の辞書を持ってきて、調べて伝えてくれたりしてくださって、すぐに打ち解けることができました。私たちのことをいつも気にかけてくれ、家族の一員のように接してくれました。そうは言っても、やはり最初のころはあまり会話ができず、質問してくださったことに対する受け答えで精一杯の状態でした。日に日に会話が成り立つようになっていきましたが、それまでにすごく迷惑をかけたと思います。

シュテフィは、日本のアニメや漫画にとっても興味があり、部屋に日本の漫画のドイツ語版がたくさんあって驚きました。日本のことに興味をもってくれていることに対する嬉しさの反面、自分ももっとドイツについて調べていけばよかったという後悔もありました。また、日本の音楽についてもたくさんの知識があり、私の大好きな曲も知っていて、



ずっと流して歌ってました！

シュテフィの友達のパピーも大抵毎日家に来て、みんなで一緒におしゃべりしたり、ゲームしたりしていました。とても優しくて、いつもみんなを盛り上げてくれて、なくてはならない存在でした。

今回の滞在では、ヴォルフラーツハウゼン市だけでなく、ミュンヘン市内などにも行かせていただいて、よりたくさん経験をすることが出来ました。ミュンヘンは都会といってもすごくきれいで、東京などがどれだけ灰色でどれだけ汚いかを思い知らされました。日本みたいに道路にタバコの吸殻が落ちていくわけでもなく、缶やペットボトルがポイ捨てされているわけでもない。「ひとりひとりが環境のことをちゃんと考え、どうすれば良いのか自覚しているんだ。さすが環境大国。」と思わされました。特に、バイエルン地方ではゴミ処理に力をいれているらしく、日本とは比べ物にならないくらい徹底的にゴミを再利用していました。「こんな風に使えるんだ」と思うとともに、日本のゴミの無駄遣いさを認識させられ、「私たちも見習わない」と思わされました。

また、ドイツにはキリスト教会が多く、たくさんの教会を見に行くことが出来ました。どの教会もきれいなステンドグラスやパイプオルガンがあり、日本のものとは比べ物にならないほどすばらしかったです。

日本にいと一年分くらいの経験をこの十日間でさせてもらいました。今回学んだことを私だけのものにするのではなく、たくさんの人に広めていきたいと思えます。

今回の派遣事業に携わってくださった入間市役所、ヴォルフラーツハウゼン市役所の職員のみなさま、ホストファミリー、青少年のみんな、山本さんファミリー、ヴォルフラーツハウゼン市民のみなさん、そして派遣団のみな、本当にどうもありがとうございました！



ドイツでの思い出

絹山 寿理亜

ドイツでの滞在は本当に素晴らしいものでした。

私のホストファミリーはドレクスル家のみなさんでした。今回初めてのホームステイということで、行く前は緊張と不安な気持ちでいっぱいでしたが、ホストファミリーの方々は、堅田さんと私に家族の一員のように接してくれたので、すぐに打ち解けることが出来、不安な気持ちもすぐにはなくなりました。

ホストファミリーとの1日では、スワロフスキーの博物館を堅田さんと私に見せてあげたいとオーストリアまで連れて行ってくれたり、私が森を見たいと言ったら、サイクリングに連れて行ってくれたり、夜にはバーベキューを開いてくれたりととても優しくしてもらいました。



ホストマザーの作る料理はとても美味しく、毎晩満腹でした（笑）すごく驚いたことは、ドレクスル家で作られる料理のほとんどが手作りだったということです。例えば、朝食に出るパンのすべてがホストマザーの手作りで、ジャムは庭で取れた果物から作ったもので、ハーブティーも庭で育てたハーブから作り、ピザに関しては生地から作ると言っていました。毎日本格的な料理を食べさせてもらえて、私は幸せ者でした（笑）

私の一番の楽しみは、晩ごはんの後のホストファミリーとの団らんでした。ホストファミリーもマザーも旅行することが大好きで、色んな旅行話を聞かせてくれました。自然が大好きだということで、国立公園によく行くと言っていた



のですが、訪れた国立公園の数があまりにも多かったため、とても驚きました。私も自然が好きなため、それぞれの国立公園の特徴や穴場などを教えてくれたので、興味深かったです。

ドイツは環境先進国といわれているだけあり、環境問題にしっかりと取り組んでいました。特に、ゴミの分別には厳しかったです。私のホストファミリーは、自宅で1年かけて(!)生ゴミを肥料に変えていました。また、スーパーで買い物するときは、買い物袋を持っていくことが当たり前で、忘れた場合、レジ袋を買う、もしくはものすごく薄い袋がレジ袋の代わりとしてもらえます。私がもらったときはすでに破れていました(笑)

一番驚いたことは、日本人以上に日本の音楽や漫画に詳しい子がいたことでした。自分の国の文化に外国の人が興味を持っているということがすごく嬉しかったので、来年ヴォ市の人たちが日本に来るまでにドイツについて調べようと思いました。

また、この派遣から事前学習の重要性に気付かされました。私はドイツについて勉強不足のまま、今回の派遣に参加してしまったため、ドイツの人にドイツについてどんな事を知っているのかと聞かれても、ありきたりな事しか答えられず、ダッハウ強制収容所に行った時にどう感じたかと尋ねられても、悲しいことだと思うといったような事しか言えず、もっとドイツについて調べるべきだったとすごく後悔しました。こういったことから、学ぶことの重要さ、また、他国の文化や歴史を知って視野を広げていくことがいかに大切かを痛感しました。

最後に、たった10日間ではありましたが、私はこの派遣で大きな財産を手に入れたと思っています。素晴らしい経験をしたこともそうなのですが、何より素晴らしい人たちと知り合えたことは、一生心に残るものとなりました。

今回この派遣事業を実行するにあたって協力していただいたすべての方々に感謝したいです！本当にありがとうございました！Danke!!!



ドイツ！ドイツ！ドイツ！

北村 翼

ついに行くことが出来た子供の時からのおこがれだった国ドイツ！しかし、もともと恥ずかしがり屋なところがあったわたしは最初、9日間青少年のみんなやドイツの方々とは仲良くできるか不安でした。しかし、そんなのお構いなしにどんどん話しかけてくれたドイツの人たち。日本人にはあまりない積極性をすごく見ることができました。

彼らは、入間友好祭の時に「一緒に入間音頭を踊ろう」って言ったらすぐに「いいよ」といって踊ってくれましたし、見知らぬ人にもすぐに話しかけるといふ（しかもすぐ意気投合？）日本人だったら絶対におじおじしちゃうところも全く気にせずに行動に移せるというのを見て素晴らしいなと思いました。

でも、私たちもこの10日間で彼らから吸収出来たものがありました。それは、彼らほどではないですがあの積極性。それを一番感じたのは、最後の日にヴォルフラーツハウゼン市の市役所での事でした。行動の記録にも書いたように初日にそこに行ったときはテーブルの上に置いてあった飲み物に手をつけられなかった私たち（特に私と一平太）は「飲んでいいよ」って言われる前に勝手に手を伸ばしていました。見方を変えれば人目を気にしていないだけという風に見えますが、OKと言われているのだからわざわざ無駄な遠慮をしないと言う事なのかなと感じました。



そして、二つ目にすごいなと思ったのは、ヴォルフラーツハウゼン市はもち

ろんのこと、どこの町・村へ行っても昔ながらのドイツがそのまま残っているのです。日本では山間部や特定の町に行かなくては見られないですが、どこにもあるのです。日曜日に家族と言った街では壁に絵が描いてあり、とてもすごかったです。また、市内には JUSCO のような大型スーパーはなくほとんどが一軒一軒の専門店で日本にはない新鮮な感じ(?)でした。



また、みんなで乗った電車は日本とは全くちがう!!みんなで駅へ行き、電車に乗るぞと思ったら、改札は…!?そうドイツの駅には改札はなく(チケットは必要だけど)そのまま乗れるのです。だからキセルが横行しているのが問題だとも言っていました。チケットは車掌さんがたまに見に来るだけなのです。また、車内にはごみ箱がありましたがバナナが…日本の方がいいと思った唯一のときでした。



夜、家がある通りの夏のパーティーにて Basti の友達とも仲良く。ドイツの12歳は22歳をナンパしようとするほど積極性があることを学びました(笑この日は朝3:00まで…)

ヴォルフラーツハウゼン市訪問を終えて

安達 牧子

◎ 私が感じたドイツ人氣質

「ここで見聞きしたことすべてを本気に取らないように。」挨拶の中でフォルスター市長はこう述べられたが、それは国際交流を行うにあたってとても印象的な言葉だった。自分の意見を押し通すような響きはない。私はこの言葉を頭の隅においてヴォルフラーツハウゼンでの8日間を過ごした。

入間市国際交流協会に入会し、ヴォルフラーツハウゼン市民と交流するようになってから6年ぐらいになるが、私にとって今回の訪問が初めてである。

ヴォルフラーツハウゼン市はロイザッハ川やイザール川を中心にこぢんまりと落ち着いた雰囲気のある町であった。昔はこれらの川を利用し、筏で物資の輸送が行われていたという。私たちがここに到着してから3日間雨が降り続いたが、そのうちに川の水嵩も増し、ある箇所では川が氾濫して、道路の交通規制が敷かれていた。日本庭園の剪定にも影響が出て、作業に必要な高所作業車が使えなくなるので週末までに作業を済ませるようにとのことだった。川の地形はそのままにし、川に沿って道路を作り、堤防を築かないドイツ人は自然に逆らうことなくそれを見守っている。またそのためか、かなり高い所に住居を構え、時間をかけて家路につくお年寄りの姿も見られる。



ミュンヘンではアルテンペーター教会の300段の階段を登り、ミュンヘンの町を一望した。付添い人のディッペンさんとカロリーネが塔から見える建物や土地についていろいろ詳しく説明してくれた。例えばテレビ塔や英国庭園、特許庁、ミュンヘンの一等地、ルネッサンス様式の教会など。またフラウエン

教会には二つの塔があるが、片方の土地が地盤沈下で低くなったため、低い分だけ塔を高くした、とか、マルクトの魚市場周辺は魚臭いので土地が安いなど、階段を下りてからも二人は留まることなく色々興味深い話をしてくれた。果たして私に、東京タワーに上ってこのようにとうとうと説明ができるだろうか。ガイド付きのツアーではドイツ人の青少年が盛んに手を上げて質問し、納得のいくまで質問を繰り返す姿が見られた。ドイツでは10代前半からおおよその自分の進路を決めなくてはならないようで、自立した考え、個性が早くから育ってくるように思われた。

またダッハウ収容所の見学ではドイツのプラスの部分だけでなくマイナスの面も見せ、物事の本質に迫っているように感じさせられた。私たち日本人は負の業をどこまで明らかにしているだろうか。

今回のドイツ訪問ではドイツ人の自立的精神に多く触れたように思う。自然と向き合い文明の便利さに頼らない姿勢、ドイツ青少年の積極性・自発性、罪の責任を誰のせいにするまでもなく自ら明らかにしようとする態度、そしてあのフォルスター市長の言葉「本気に取らない」は、物事に安易に傾倒せず自分でよく考えたうえで判断する自立心、つまり自分自身に誠実であることなのだと感じた。



◎ 通訳随行者として

今回の訪問では、さまざまな学習テーマをもって臨んだ青少年の皆さん同様、私にも自分のドイツ語を少しでも向上させたいという目標があった。行く前にできるだけ多く、生のドイツ語に触れたいと思い、駿河台大学に在学中のドイ

ツ交換留学生にお願いして青少年の学習テーマの参考になる資料などを一緒に読んだり、それについて話し合ったりした。

いざドイツへ行ってみると、バイリッシュ（バイエルン地方の方言）には苦労したが、ヴォルフラーツハウゼンの人々は親切に標準語に置き換えて丁寧に話してくれた。はじめて聞く単語は簡単にドイツ語で説明してもらい、当然のことながら、できるだけ忠実に訳すことを心がけた。もうひとつ通訳として難しいと感じたことに表現の違いがある。例えば、日本語の「お世話になります」はドイツ語で「あなたの援助を受けます」や、「あなたの骨折りに感謝します」ということになるであろうか。時に日本語ではその言葉を「生」で話さず別の言葉に置き換えてしまう。相手の気持ちを考えてか、余計な言葉が付随して、結局言わんとしていることが曖昧になってしまってしまう日本語と、なるべく無駄を削ぎ落として論理的かつ明確に表現するドイツ語。それらをいかに近づけ、お互いの気持ちを汲んで表現するかに苦心したが、それを考えて発見した時は楽しかった。そして外国語を話すとは母国語を考えることだと感じた。飛躍しすぎかもしれないが、他の国をみて自国を知るというのは、国際交流においてまた大事な部分であると思う。私にとっては、なにげなく話している日本語の奥ゆかしさを知るいい機会となった。

また、あちらで通訳として活躍されている方々から色々と教えていただき、貴重な8日間をもつことができた。今後もこの経験をもとに、両市の交流がさらに深まるようお役に立てればと思う。



青少年異文化体験訪問団派遣事業を終えて

増岡 哲也

「青少年異文化体験訪問団派遣事業」として、入間市の青少年が姉妹都市ドイツ・ヴォルフラーツハウゼン市を訪問するのは、1996年（平成8年）の開始以来、今回で8回目となりました。

この派遣事業は、平成22年度中に16歳から22歳になる青少年を対象に、①人生の中でも多感な時期に異文化を体験し理解するとともに互いを認め合う心を育むこと、②姉妹都市関係の発展に寄与すること、③この事業で得た経験を家族・友人・学校・地域社会等へ還元すること、の3点を目的として実施しました。

また、今回は「友好日本庭園管理指導者派遣事業」として、入間市造園組合から選出された3名の庭師も同時に派遣しました。これは、2003年（平成15年）のヴォルフラーツハウゼン千年祭（1003年に発行されたレーゲンスブルクの古文書に市の名前の語源である「ヴォルフラーデフズム」があり、それから1000年を経過した年に開催）時に寄贈した友好日本庭園の大規模な剪定作業を行うことを目的として派遣されたものです。

4月中旬、青少年は、多数の応募者の中からの選考により、入間市の代表者として決定されました。彼らの初顔合わせは、市国際交流協会の総会でした。ここでは、大勢の人前で一人ずつ「派遣に向けての抱負」をスピーチしました。皆、緊張するどころか落ち着いた様子で、しかも大きい声ではっきりとスピーチを行うことができました。その時、私が随行する青少年は大物揃いで、しっかりした子ばかりだと心強く感じました。

派遣期間中は、出会い・言葉の壁・感動・別れなど数多くのストーリーが青少年に繰り広げられました。

ヴォルフラーツハウゼン市側には、派遣団の意向を最大限に取り入れたプログラムを作成していただき、ホームステイ先では両市民の交流が深められたと同時に、本当の家族の一員となれたようでした。個々の学習テーマも事前に設定し、明確な目的を持って訪問したことによ



り、しっかりと学習にも取り組むことが出来、異文化体験を存分に楽しむことが出来ました。

自然の美しさに感動し、環境・文化・歴史を学び、ホストファミリーとの別れに涙し、「熱い」夏を過ごすことが出来たことと思います。

私個人としても、現在の職場に在籍して3年目になりますが、ヴォルフラーツハウゼン市訪問は初めてでした。しかし、この間、万燈まつり訪問団をはじめとしてヴォルフラーツハウゼン市民の来訪を3回受入れており、その世話役として経験を積んだことにより信頼関係を築くことができ、今回の訪問において十分過ぎるほどのお持て成しを受けました。携わってきたこの2年間、自分が積み重ねた対応は無駄でなかったことが確認できました。



今回の訪問の中での私の一番の目的は、姉妹都市提携（昭和62年）から23年の月日が経ち、時代も変わり過ぎて行く中で、自分なりに姉妹都市について検証することでした。当然の如く私の立場では、提携の経緯などは、この職場に配属された時から聞いており、自分なりに調べましたが、実際にその場に足を運んでみなければ分からないことも沢山あり、全てを理解するまでには至っていませんでした。しかし、今回の訪問で数多くのことを学び、ヴォルフラーツハウゼン市が入間市が目指す「香り豊かな緑の文化都市」に相応しい都市であることを自分自身で確認することができ、3年目にして何故この市が姉妹都市であるのかを心底理解することができました。

まだまだ、経済不況の最中、様々な声も聞こえますが、私の役割として姉妹都市交流の大切さをもっと多くの市民に伝えていかなければならないと思いました。

こんな私の経験から、私と同じ立場に就く職員は、早いうちに姉妹都市を訪問することが、円滑に業務を遂行する早道とも感じました。



この派遣事業を通して、私も青少年も大変多くのことを学ぶことが出来ました。現地の方々とは会話する中で自分なりに考えを深めることも出来ました。国際的な視野が広がり、学校や学年を超えて社交性が養われ、チャレンジする気持ちや姿勢がなければ何も得られないこと、言語や生活様式が異なるように価

値観も様々であり、その差異を理解する広い心が必要であることを自分自身の体験から感じとれたことと思います。インターネット等から得る情報だけでなく、自分の目で見て、五感を働かせ体験することで貴重な経験を積むことが出来、大きな財産（1番の土産）を得たことと思います。

この事業はこれで終了ではありません。今後、さらに飛躍するために、青少年はこの事業で得た経験を自分だけの宝物とせず、友人・学校・地域社会などへ還元して欲しいと思います。派遣事業の目的は、将来に渡り、永遠に継続していることを忘れないでもらいたいです。

派遣事業を終えて、小さなことではありますが、まずはこのように市レベルでの交流を深め、それをきっかけに国家同士の友好が深められ、最終的には戦争のない世界平和へと繋がることを信じています。

最後に忘れてはならないのが、この事業は多くの方々のご協力により実施できたということです。ヴォルフラーツハウゼン市関係者・入間市・市国際交流協会・市造園組合・選考委員の皆さん・ドイツ語文書を何回も翻訳していただき調整までしていただいた日高さん、ドイツ語研修をしていただいた今井さん、その他大勢の方々にご支援を頂きました。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



アルバム



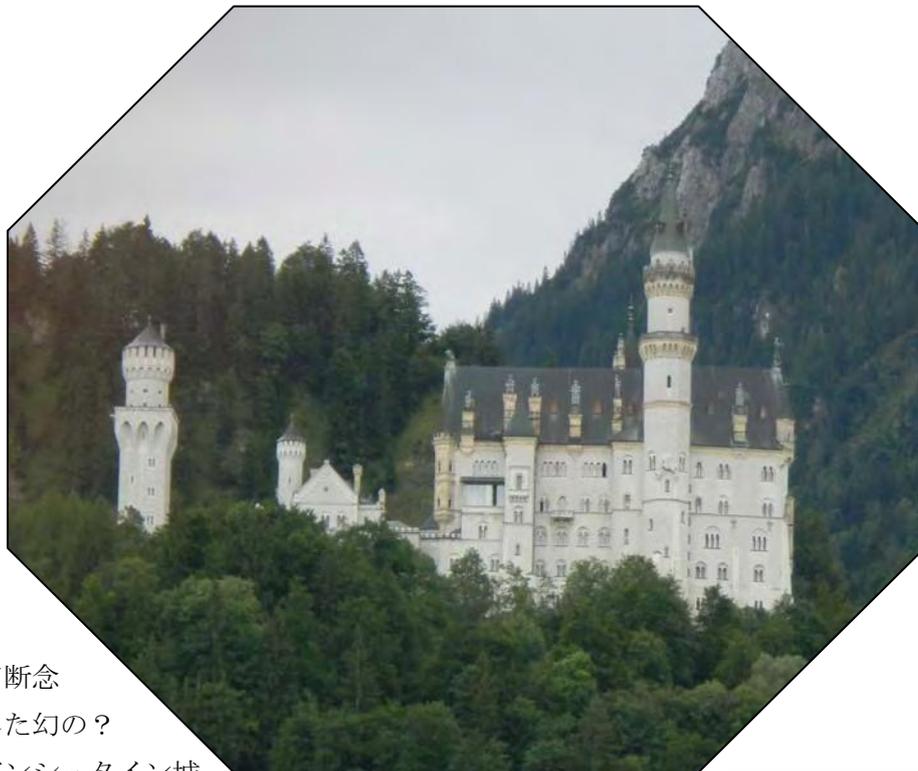
入間市役所前で出発式の様子

ヴォ市街でアイスクリーム休憩



ヴィース教会にて





目前にして断念

した幻の？

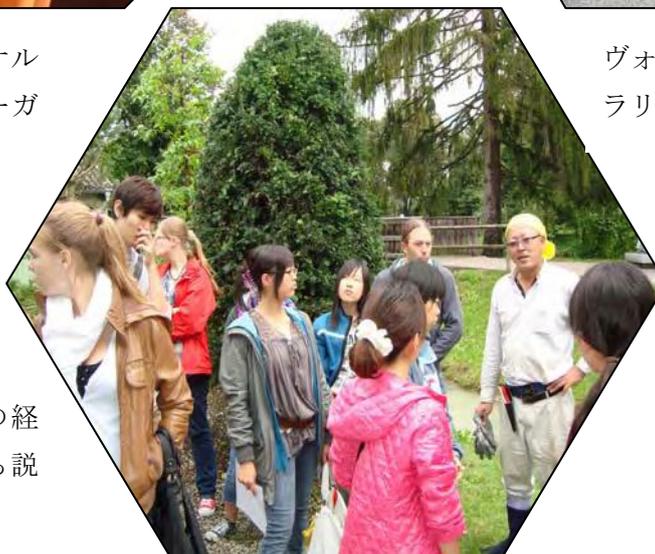
ノイシュバンシュタイン城



怪獣一平太？マクドナルド体験で自作ハンバーガーに食いつく



ヴォルフラーツハウゼンラリーの様子



友好日本庭園造成の経緯について庭師から説明を聞く様子

入間友好協会主催の「夏祭り」でのショット！



ミュンヘンでの
市場ツアー



ミュンヘンの空

ミュンヘン
「市庁舎」



アリアンツ・アリーナ



ヴォルフラーツハウゼン市街



ヴォルフラーツハウゼン市

ロイザッハ川に架かる木橋と噴水



ドイツの建造物から学んだこと

佐藤 一平太

ドイツでの学習計画に、僕はドイツの人達の歴史的建造物に対する考え方を学ぶ、ということを挙げていました。その「歴史的建造物」の中でも特に第二次世界大戦に関連するような、いわゆるドイツの負の遺産と呼ばれる建造物は一度見ておかななくてはいけないものであると考えていたので、今回の異文化派遣でダッハウ強制収容所を訪問することができたのは本当に意義のあることでした。

ダッハウ強制収容所を訪問するのは8日目のことだったのですが、6日目にミュンヘンからホームステイ宅に帰宅する際、家主のフォルカーさんが車で迎えに来て頂けるとのことで、皆と一緒に帰らず、その後ミュンヘンの街中をドライブしてもらうことができました。その際、フォルカーさんがかつて通っていたらっしゃった大学やドイツ最大の博物館などなど交流プログラムにはないものまでも紹介して頂くことができたのですが、その一環で、ドイツで有名な「凱旋門」を見ることが出来ました。勝利の門については、僕も歴史の授業の教科書でその写真をみたことがありました。なので、車でその門下を過ぎる際、僕は「これが勝利の門ですね。」とフォルカーさんに言ってしまったところ、フォルカーさんは少し気むずかしい顔をしながら「ドイツは今まで一度として戦争に勝利したことはありませんよ」と発言され、衝撃を受けたのを今でも覚えています。自分の中途半端な知識で発言してしまったことや、相手のことを慮らない配慮の欠いたことを言ってしまったことを本当に恥ずかしく思うのですが、普段はとても温厚でいつでも笑顔を絶やさないフォルカーさんに、そのように違った表情を見せてしまうドイツの歴史というのは僕等が想像している以上に深いものであることを印象づけられた気がしました。

8日目にダッハウ強制収容所を訪問しました。入り口こそ、綺麗な建物（サービスセンターのようなもの）が並んでいたのですが、中に入っていくと、どんよりとした空気と共に強制収容の建物があり、これらが決して遠い過去の遺跡ではなく、60年ほど前には実際に使用されていた建物であることを想像すると何とも言えぬ怖気が立ちました。普段は和気藹々としていて、常に笑顔で談笑の絶えない派遣メンバーだったのですが、この時ばかりは皆うつむいた表情で、中には気分が悪くなってしまいうメンバーもいました。ドイツの青少年も同様に、敷地内を移動する際も、天気はとても良かったにも拘わらず皆の表情

【学習の記録】

は暗かったように感じられました。

僕が最も恐ろしいと感じたことは、大きな嘘があまりにも堂々と掲げられていたことです。入り口の門に「働けば自由になれる」と書かれていたり、毒ガス室に「シャワー室」などと書かれていたりしたことなど、嘘の恐ろしさと共に、言葉の恐ろしさの様なものも感じられました。



このダッハウ強制収容所訪問は8日目の日程で、とても気が滅入ってしまって、一瞬、「最終日にこのようなところをわざわざ訪問しなくてもいいじゃないか。」と頭の中をよぎったことを覚えています。しかし、僕はすぐさまその考えを打ち消しました。なぜなら、七日目までの華やかで楽しい面だけでなく、このような一面も持っている国こそがドイツであり、より多くの面の知識を日本へ持ち帰ってこそ真に有意義であると考えたからです。

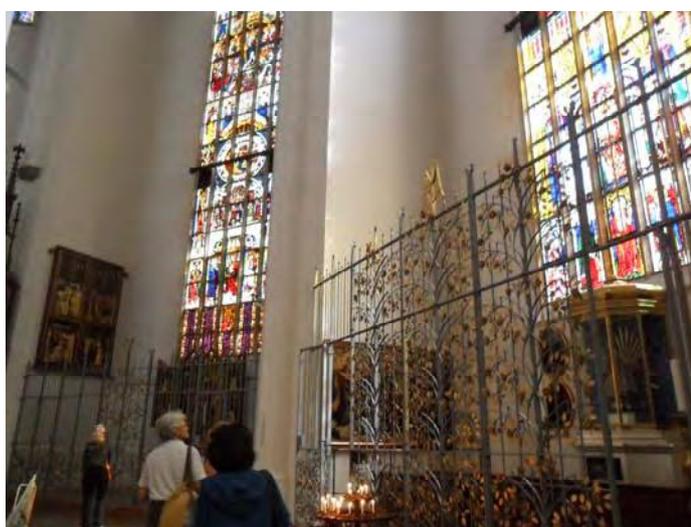
ドイツの建築

堅田 美智

大学でドイツについて学んでいるが、文学や音楽など様々な観点からドイツを見たところ、その中でも特にドイツの教会の建築が非常に印象に残った。そこで今まで写真でしか見てこなかった教会を、今回ぜひとも実際に現地で見ようと思い、この学習テーマを選んだ。

【フラウエン教会】

レンガづくりの重厚な教会。本来フランスで生まれたゴシック様式に対して、ドイツ内で14-15世紀に独自に発達したゴシック様式を、後期ゴシック様式という。この様式は、側面の壁と天井が同じ高さであるのが特徴である。つまり教会全体の天井が、どこも同じ高さになっ



ているのである。それにより、側面に小窓が付かず、教会全体が一つのホールのようにも感じられる。

このフラウエン教会は1468～1488年にドイツ特有の後期ゴシック様式で建てられた。写真にもあるように、ステンドグラスがたくさんはめ込まれているが、多くが戦争で壊されてしまったため、建設当時から残っているステンドグラスは少ないと言っていた。古くからあるステンドグラスは、新しいのに比べ色が鮮やからしい。注意して見てみると、確かに若干ではあるが色が違った。

この教会のシンボルである玉ねぎ型の屋根の部分は、石を積み上げて造られたと言っていた。1488年という、かなり大昔(日本では室町時代にあたる)にすでにそのような技術があったことに驚いた。ちなみにこの教会の大きさは、内部の廊下のような道の長さが109m、幅41.05m天井までの高さが31mと非常に大きい！詳しい技術は分らなかったけれども、すごく高度な技術が使われたことを、見ているだけでも感じる事ができた。

また、この教会の名前にもなっている「フラウエン」はドイツ語で「聖母」という意味。フラウエン教会は女性を敬う教会であるとのこと。そのため、教

【学習の記録】

会内には様々な聖人達の棺？のようなものがあつたが、マリア様の棺の前だけろうそくが灯っていた。ろうそくは常に灯っていると言っていた。

【ペーター教会の塔】

11世紀に建てられたこの教会はミュンヘン最古の教会。先ほどのフラウエン教会と比べてみると、あまり華やかな感じはしなかった。どっちかという、地味で素朴な印象を受けた。老ペーターの愛称を持つ。建築様式は拡張工事が行われた時代ごとに異なっており、



ゴシック、バロック、ルネサンスが混在する。

現在の建物は第二次世界大戦で完全に破壊されたものを1954年に再建したもの。92mの狭い階段(302段)を上ると、ミュンヘンが360度見渡せた！！階段は本当に狭く、結構段差も急だった。再建したとはいっても、もとは11世紀のつくりだから？

塔から見渡した景色は、例えばうがないほどきれいだった。天気も良かったため、結構遠くまで見渡せたように思う。本当に天気が良いと、アルプスの方まで見渡せるらしい！

今回、写真でしか見たことのなかった教会を実際に自分の目で見ることができ、大変感動した。写真からでも、ドイツの高度な建築技術による教会の素晴らしさ、というものは伝わってはいたが本物はやっぱり違ったように感じる。自分で足を現地に運んでみることの大切さ、ということも知った。

また、ペーター教会を見学し、ドイツの人々が古いものをとことん大事にする精神というものが少し垣間見えたように思う。そのように、外国の良い面をたくさん見つけて、私もぜひ見習っていきたいと考える。

表現派について

田村 恵里佳

<表現派とは・・・？>

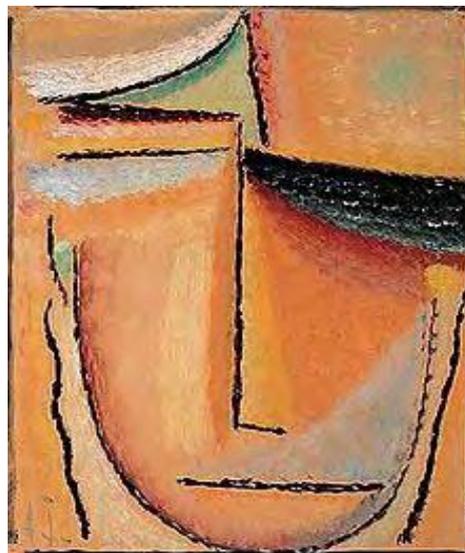
表現派（ひょうげんは）とは、様々な芸術分野（絵画、文学、映像、建築など）において、一般に、感情を作品中に反映させて表現する傾向のことを指す。表現主義とも言われる。狭い意味の表現主義は、20世紀初頭にドイツにおいて生まれた芸術運動であるドイツ表現主義（またはドイツ表現派）および、その影響を受けて様々に発展した20世紀以降の芸術家やその作品について使われる。

ドイツ表現主義の作品において、よく扱われるテーマは、生活の矛盾（性的なもの、家族間のものなど）から、革命、戦争、社会の矛盾など、いわば既存の秩序や市民生活に対する反逆を目指したものが多い。ドイツ表現主義においては、伝統的な芸術の様式は破壊され、また自然主義とは正反対の立場をとる。表現主義者は、ニーチェ（ドイツの哲学者）に思想的な影響を受けているとされる。ここでは、美術における表現について述べるとする。

<表現派の特徴と青騎士>

美術における表現派の特徴は、外の印象ではなく、画家の内面を表現しようとした。そのため、先程も述べたが、今までの絵画法則（遠近法や解剖学、明暗法など）を無視して、情緒的に輪郭を強調したり、強烈な色彩の画面を作り上げた。

例えば、これ。ドイツの代表的な表現派の画家である、アレクセイ・ヤウレンスキーの「抽象的な頭部」という作品である。



ドイツ表現派の画家には、

ワシリー・カンディンスキー (Wassily Kandinsky, 1866 - 1944)

ハインリヒ・カンペドンク (Heinrich Campendonk, 1889 - 1957)

エルンスト・ルートヴィッヒ・キルヒナー (Ernst Ludwig Kirchner, 1880 - 1938)

ジョージ・グロス (George Grosz, 1893 - 1959)

【学習の記録】

エゴン・シーレ (Egon Schiele, 1890 - 1918)
オットー・ディクス (Otto Dix, 1891 - 1969)
フランツ・マルク (Franz Marc, 1880 - 1916)
ガブリエーレ・ミュンター (Gabriele Münter, 1877 - 1962)
オットー・ミュラー (Otto Mueller, 1874 - 1930)
アレクセイ・フォン・ヤウレンスキー (Alexej von Jawlensky, 1864 - 1941)
など、ここに載せられないくらい沢山いる。

カンディンスキーやマルクは後に、青騎士（ドイツ語: der Blaue Reiter）という同盟を結成する。「青騎士」というはっきりした芸術家集団があったわけではなく、その実態は芸術年刊誌『青騎士』編集部と、彼らによる企画展であった。しかし、お互いに近い理念と興味関心を有していた点で青騎士は一つの芸術運動ともみなされる。青騎士は、「形式と色彩の自立、物自体からの独立」を目標としていた。活動期間としては約3年間であり、非常に短命であったが、その後世に与えた影響は大きく、青騎士と周辺の芸術家は20世紀における現代芸術の重要な先駆けとなったという。

このような作品が、ミュンヘンにある美術館で見られるらしい。そこで、ホストファミリーと共に、モダン・ピナコテークという美術館を訪れてみた。

<モダン・ピナコテーク>

私達が訪れたこの美術館は、20世紀～現代までのアート作品を展示しているらしい。美術館の第一印象としては、広い。広すぎる。かなりの総面積があり、展示品と展示品の間も広い。この様な贅沢な空間の中で、思う存分アートが楽しめる。入口を入ると、吹き抜けの円形ホールがあり、天井光が差し込んでいた。たぶん、天候によっても美術館の雰囲気は左右されるのだろう。2階はクレーやマグリット、ピカソなどの重要展示品を所蔵する絵画部門で、地階は工業デザインなどのコレクションがあった。

この美術館を訪れて驚いたのは、美術館自体が展示品と一体となって独特の雰囲気を醸し出していることである。こう書くと良く分からないかもしれないが、他では体験できないと思う。表現派以外の作品もたくさんあるので、少しでも美術に興味のある方はここを訪れてみることを強くオススメする。



ドイツでの学習

川畑 菜水

私の今回の学習テーマは環境に配慮した街づくりについてです。最近をよく、ドイツは環境大国だと聞きます。そんなドイツの環境への意識はどうか？自然に対してどのような思いがあるのかを街づくりという観点から考えてみました。

ドイツの家や家具は100年以上も使われているものが意外と多いそうです。良いものは大事に使う。それはゴミを出さないための心掛けと共通する部分があるのではないのでしょうか？ヴォルフラーツハウゼン市も例外でなく、例えば市長さんの机は100年以上使われているのだとか。



この通り、ヴォルフラーツハウゼンには自然と共存して生活しているという空気で満ち溢れています。街の至る所に花が咲き、ゴミ一つ落ちてはいませんでした。ここに住む人一人ひとりが自然を愛しみ、大切にしていこうという心の現れなのではないのでしょうか。入間市や日本全体でも学ぶべき事だと思います。

ドイツでは木を切るという風習は無く、どんな木でもできるだけそこに生かしていこうという考え方があります。森林伐採で世界中の木々が減少している中、このような考え方は貴重であり、素晴らしいと思います。

そして、このクリーンな街並みを実現するために必要な場所も訪れて参りました。ヴォルフラーツハウゼンから少し離れた位置にあるゴミ処理リサイクル場です。ここは、生ゴミなどを集め菌やバクテリアなどの働きでそれを有機肥料に変え、販売や配布をしているところです。日本では大量のゴミを置いておく場所がないせいか、なかなか有機肥料を大規模に作っているところは少ないです…

【学習の記録】

ドイツだからできることかもしれないですが、きっと日本にも見習えることはあるはず！はりきって中に入りましたが、匂いが酷くてリタイアしました…



リサイクル工場の内部の様子。左側の写真の車ではゴミが大きい粒のものと、小さい粒のものと分けられています。先程記述した有機肥料の事ですが、こちらはこの車で振り分けられるそうです。有機肥料には種類があって、一部の種類の肥料は農業者に無償で配布されます。

ヴォルフラーツハウゼンの坂を少し上ると沢山の農場が点在していますが、それらの多くはこのリサイクル工場で精製された肥料を使用しているものと見られます。それもこの街が美しい秘訣なのかもしれません。

美しい街に住む人々は皆、物を大切に扱い、排出されたゴミまでも資源として使用することを考えることができる。今回の学習で学んだことの一つです。日本でもゴミをリサイクルし、再生使用するという考え方はありますが、この体験を通して、それはまだまだ他国には及ばないものだと感じました。社会政策の中で環境に取り組む事業が多い半面、個人個人で環境を守ろうとしようとする思想はまだまだ薄いようです。だから、私もできることから始めてみようと思います。環境に配慮した美しい街づくり。それは入間市の課題ともなっています。ヴォルフラーツハウゼンの街づくりを見習えば、これからの入間市に何が必要なのかを知ることができるような気がしました。私は自然が大好きです！そんな素晴らしい自然が入間にも、ドイツにも、そして世界各国に広がり、沢山の人が健やかに過ごせるような日々を夢見ています。



姉妹都市ヴォルフラーツハウゼン市と入間市との交流という貴重な体験を通して、また一つ成長できたような気がしました。

これからもこの良い関係が末永く続き、いつまでもこの交流が続いていけばいいなあ…と考えています！

環境の学習

西永 みなみ

今回、環境学習のために WGV を見学に行きました。ドイツのリサイクル施設の見学が私の学習テーマだったので、見学することができてうれしかったです。

●ゴミ処理の仕組み●

- ① 生ゴミではないものは固めて出します。(これは一週間でたまります。)
 - ② 磁石が付いている機械で金属を取り出します。
 - ③ 細かいものと粗いものにわけます。
- ※ このときにしっかり分けないとゴミ処理の費用が高くなってしまいます。
ここからはいくつかの工程にわかれれます。



☆ 細かいもの編～生ゴミを有機肥料にしよう！！～☆

ここで、活躍してくれるのが微生物たち！人が微生物が生活しやすい環境を整えれば微生物は増加、増加時の熱で生ゴミの中の病気の細菌は消えます。ゆっくり空気を送って微生物を活性化→臭いにおいをなくします。そして、水分が蒸発して煙が出ます。ここで発酵もしています。(白いものはカビの菌です。これは、森にはかせません。)

【学習の記録】



この有機肥料は植物の成長を促進させます。草からできたものは販売することができます。農業用にも販売しています。ガーデニング用の土にはレンガなどを混ぜることで土が水を吸収するので植木鉢に水が少なくても大丈夫なんだそうです。(びっくりしました！)

☆ 粗いもの編～リサイクルしよう！！～ ☆

紙ゴミは普通の紙と段ボールに分けます。(細かくは水などに流せる高級な紙にも分けます。)

段ボールは圧縮していき多くの量を隣の処理場に運びます。そこでは段ボールのリサイクルもできるそうです。また、紙ゴミはインクを取り出せる紙と取り出せない紙に分けます。取り出せるものは近くの工場、新聞や紙にリサイクルします。取り出せないものはダンボールにリサイクルします。驚いたことに、紙用の圧縮機で他のビニールなども小さくて散らかりますがプレスして量を減らします。

プラスチックにもいろいろあり、きれいなものは食料の梱包材としてリサイクルできるそうです。

☆ 感想 ☆

WG Vの方から、「資源の再利用は資源を保護することにつながる!」、「市民が積極的にゴミの分別に取り組むことが大切!」と言われ本当にそうだなあと思いました。私もゴミの分別を心がけたいと思いました。

ドイツの医療制度

金子 美桜

私は医療に興味があり、日本からもたくさんの留学生が行っており、先進国と言われているドイツでは、どのような制度になっているのか、というテーマをもっていきました。

まず、最初に確認しておきたいことは、医者になる過程です。ドイツで医者になるには、大学で6年勉強した後、実際に働きながらも勉強を重ねて行くそうです。これは日本と変わりません。

では、本題に。

私たちはヴォルフラーツハウゼン市内の病院を訪れました。その病院には全部でベッドが数200個、手術室が4室あり、1年で6,000～7,000人を診察するそうです。私たちは、そこで七つの場所を見せていただきました。

では、ひとつひとつの説明をしていきます。

①応急手当室



重症を負った人がくると、いろいろな処置ができます。

例) 痛み止め

超音波で身体をみる→処置決定

↳何が悪いかわかったら、次の場所へ
(レントゲン?手術?etc..)

【学習の記録】

②レントゲン室



骨折しているかどうかや、身体の中の様子がわかります。
レントゲンの機械は、高さ、角度が調整できます。
→ けが人をできるだけ動かさないように

③ギプス室



骨折、脱臼の人がきます。
ここでは、みんなを代表して、菜水と翼がギプスを
体験させてもらいました。
○菜水 ver.



腕にしてもらいました。



この先生が持っている青いものは、繊維状のガラス。温めてやわらかくして使います。色々な形に変形できるので、色々なところに使えます。ヤマトのりみたいなにおいがしました。

ちなみに、ガラスには何種類かの色があって、患者が選べるそうです。

【学習の記録】

○翼 ver.



足にしてもらいました。

←このギプスは足のみに使います。あだ名は、スキーブーツです。似ているので(笑)



→ 中に入っているつぶつぶが固まり、固定される。

☆ 菜水のギプスと翼のギプスの違い ☆

- ・ 菜水のだと動かせないが、翼のだと普通に歩ける。
- ・ 菜水のだと約4週間つけっぱなしだが、翼のだと時々とって足を洗ったりできる。

④救急室

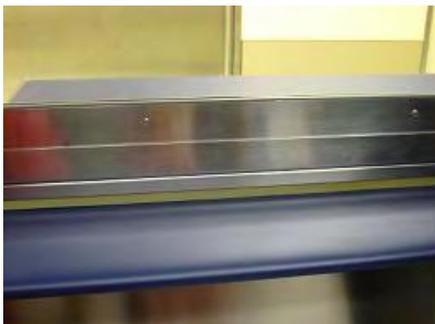


けがをした人の中で、とくに危ない状態の人8人の様子を24時間体制で見られます。
(オペの後の人、救急車で運ばれた人など)

⑤オペ室



病院で一番
大事な場所です。



←この窓を開け、机(台)に患者を乗せ、オペ室側に渡します。そしてすぐオペへ。

オペ室に行くまでは、この窓と扉の二重構造になっています。

→オペ室の中と外で気圧を変えているので、外の空気を入れないようにするため。

【学習の記録】

⑥ ナースステーション



薬品などを扱います。

24個のベッドがあり、1人部屋が5個、2人部屋が1個、残りは3人部屋です。



←ベッドはエアベッドという特別なベッドで、普通のベッドよりも高価なもの。

ずっと寝ていると患者は痛いので、マットに空気をいれてやわらかくし、患者の痛みをやわらげることができます。

⑦ 看護室 (一人用)



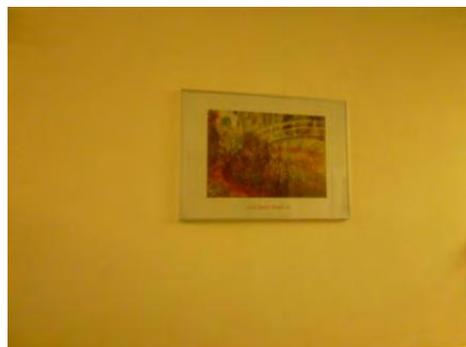
患者さんが入院するところです。

※



病院ツアーの終わりで、やっと菜水のギプスはずしました。「あの機械、怖い…」と思わず菜水がつぶやいたのは、ギプスをとる機械。確かに腕まで切れちゃいそう。でも、ご安心を！！回転して切っているのではなく、振動で切っているの、人（肌）は切れないうつくりになっています。

ドイツの病院は日本と比べて明るい印象を受けました。院内に絵が多かったり、看護室が家の一室のようなつくりだったり。患者さんに、入院しているような感覚をあたえず、ストレスにならないようにしているのではないかと思います。日本もドイツを見習って、患者さんの生活にまで気を配れる病院が増えたらいいなと思いました。



酸性雨について

絹山 寿理亜

私は環境問題について興味があり、今回はドイツ人の環境問題に取り組むきっかけとなったとも言われている酸性雨問題について調べることにしました。

1) 酸性雨とは

酸性雨は、工場や自動車などから排出される大気汚染物質を含んだ酸性の強い雨のことであり、酸性雨が降ることで河川・湖沼・土壌が酸性化し、建造物・文化遺産などに悪影響が出てしまう。

酸性雨の原因である大気汚染物質とは、化石燃料燃焼や金属精錬などで大気中に放出される二酸化硫黄 (SO_2) や窒素酸化物 (NO_x) などを起源とする酸性物質のこと。これらが雨・雪・霧などに溶け込んで降ってくる。

二酸化硫黄は、工場や火力発電などから出る硫酸化物を燃焼すると発生し、また、火山の噴煙にも含まれている。窒素酸化物はボイラーや焼却炉から出る窒素化合物が酸化されたものであり、自動車の排気ガスもそのひとつ。

これ以外の大気汚染物質には非メタン炭化水素、メタン、アンモニア、一酸化炭素、塩化水素などがある。

2) pH 値5.6以下が酸性雨の目安

人為的物質の酸性、アルカリ性の度合いの指標としては一般的に水素イオン濃度 (pH) が用いられ、酸性度が強いほど pH は低くなる。

中性の pH は7であるが、降水には大気中の二酸化炭素が溶け込むため、人為起源の大気汚染物質がなかったとしても pH は7よりも低くなる。大気中の二酸化炭素が十分溶け込んだ場合の pH が5.6であるため、酸性雨の目安としては pH5.6以下とする場合が多いが、火山、アルカリ土壌など周辺状況によっても本来の降水の pH は変わっていく。

3) 酸性雨による影響

▼工業先進国だけの問題ではない

酸性雨による影響はヨーロッパ、北米などの工業先進国のほかに、中国、東南アジアなど世界的な規模で発生している。酸性雨は従来、先進国の問題と考えられてきたが、近年では開発途上国の工業化が進んだことにより大気汚染の排出量は増加し、広域的な被害も大きな問題となってきている。

また酸性雨は原因物質が、発生源となる地域から数千キロも離れた地域に運ばれることがあるため、先進国だけに限らず、開発途上国も含めて広域的な環境問題への取り組みを強化しなくてはならない。

【学習の記録】

▼湖沼、森林への影響

ヨーロッパや北米では酸性雨による湖沼の酸性化が深刻な問題になっている。湖や沼に酸性雨が降ることで、そこに生息する生物も減少、または死滅する。「死の湖」と呼ばれる生物が生息できない湖も多くある。酸性化した湖沼を中和するために大量の石灰を散布するなどの処置を行っている国もある。

また、森林では大気汚染物質が複合的に作用することによって、樹木の黄変や、芽や葉の喪失、枯死などの影響が生じることがヨーロッパで報告されている。土壌も酸性化し栄養分が酸と反応して流出、栄養不足の土壌になり、生長が止まったり、収穫物が減少したりする被害も出ている。森林が枯れ、土壌も汚染され、そこに生息する生物もまた減少・死滅してしまう。ドイツの黒い森の被害に代表されるように、ヨーロッパでは非常に深刻な問題で、北米や中国でも大規模な被害が報告されている。

4) 対策

対策としては、硫黄酸化物や窒素酸化物の排出量をさらに削減することである。また、森林に石灰を散布して土壌酸性化の進行を遅らせることや、森林を構成する樹種を酸性雨に強い種類に代える、もしくは針葉樹と広葉樹を混ぜて、造林するなど様々な方法が考えられる。これは広葉樹が1年ごとに落葉するのに対し、針葉樹は落葉せず、葉の表面のワックスや気孔などの痛みが蓄積するため、被害が大きいからである。

ドイツやスウェーデンなどでは、針葉樹が酸性雨などで枯れてくる被害対策として広葉樹を植えるようになった。針葉樹と異なり採算まで時間のかかる広葉樹をあえて選択している。



幸いヴォ市は広葉樹の多いドイツの南部に位置するため、酸性雨による影響はあまり目にもすることもなかったけれど、針葉樹の多い黒い森では約75%の木々が枯死、あるいは衰弱していると聞いています。将来は黒い森の木々が復活して、ヴォ市のように緑豊かになって欲しいです。また、酸性雨の原因物質は長距離を移動できるということで、酸性雨問題は全世界の問題ということになります。今こそ一人一人が環境問題と真摯に向き合っていく時だと思えます。

ドイツで学んだ事

北村 翼

今回のドイツ派遣事業での私の学習テーマはドイツ人の生活や習慣、公共物でした。

まず初めに、公共物です。

やはり、今日では世界の国際化に伴って公共物も国際化しているようでした。ドイツでは、様々な場所へと行きましたが、ドイツと日本とで大きく違いを感じたのは多くはありませんでした。ただあえて言うのならば報告にも書いたように電車と街並みです。

電車で挙げられるのはまず、駅に改札がない。日本では無賃乗車を防ぐために全国のほとんどの駅に機械の改札口が設けられています。しかし、駅に着いた

と思ったらそれらしいものを通らず電車に乗っていたのです。

ドイツ人はもとより決まりを厳守するというような性格だそうで、たいがいの人はちゃんとチケットを買い乗車するそうです。しかし、話を聞くといまだに無賃乗車は絶えないらしいです。一応、電車では数



人体制で検札を行っているのですが…私が帰国後調べてみたら、それら検札が行われているため、不法乗車はまず成功しないそうで、無賃乗車の場合、次の駅で降ろされて罰金を絞られ外国旅行者の場合、悪質なものであったら国外退去も考えられるそうです。

その他としては、電車のドアは手動でレバーを引かないと開かない仕組みになっていました。これは、ドアを無用に開けてエアコンの効きを悪くしないなどを考慮したものなのかと思いました。そして、席はほとんど向き合ったもので、そこには壁につけられた小さいゴミ箱がありました。それは便利だと思ったのですが、朝、電車に乗った時そこには電車の中でバナナを食べた人がその

【学習の記録】

皮を捨てたり、様々なものが入っていました。決まりを厳守するドイツ人だと言ってもやはり日本と同じように公共のことを考えない人もいるのだなと思いました。

次に街並みです。報告書などでも書いたようにドイツで様々な街へ行くとそこはまるでテーマパーク？と疑ってしまうような街並みだったのです。道を歩いているとその道を挟んでいる建物はまるで壁のように立ち並んでいて、それらには綺麗な壁画が描かれていました。例え、大きな街であるミュンヘンへ行ってもそれは変わる事はありませんでした。新しく出来た建物も景観を壊さないよう街並みに合わせ、新しいものだけども馴染んでいるように見えました。

今回の派遣事業では様々な事を学ぶ事が出来てとてもうれしく思っています。また、機会があれば必ずドイツへ行きたいと思います。



異文化体験訪問団派遣事業に参加される方々へ

○ 佐藤一平太

ドイツでの日々は一生の思い出になることは間違いありません！十日間という日程は長いように見えて本当にあつという間です。言語の問題を挙げる方もいるかと思いますが、大体英語が通じますし、また向こうの人たちもこちら側へ伝えようとしてくれるので大丈夫です。（もちろんこちら側も一生懸命聴き、伝えようとする意志が必要です。）また、日本人からして、例え拙いものだとしても、外国の人が日本語を喋ってくれたら嬉しいように、僕達がドイツ語を喋るととても喜んでもらえました。現地の方と交流したいという熱意と、一生に一度の体験をしたいというワクワクを持っている方は是非参加してみてもいいのではないでしょうか？

○ 堅田 美智

多くの方が、少なからず自分の語学力に不安を持っていると思うけれども、そんなことは全然心配しなくても大丈夫です！私も全然しゃべれませんでした、何か単語を言うだけでも全然違うと感じました。とにかくどんな方法でも良いので、自分の気持ちを一生懸命伝えようとするその気持ちが大事だと思います。

ドイツに滞在できる日数はすごく少ないので、一日一日を大切に過ごしてください！

この訪問で得た経験は、忘れられない宝物になると思います。

ではでは行ってらっしゃい！

○ 田村 恵里佳

英語に自信が無くても大丈夫！！ジェスチャーとかで大体は伝わりました。ドイツの方々皆優しいので、心配しなくても大丈夫ですよ(^)人見知りな私でも平気でした。あと、大切なのは、自分の意見を持つこと！！頑張ってくださいね！！

○ 川畑 菜水

皆さんこんにちは！この派遣事業には様々な表情があり、それらは全てきっとあなたの人生の貴重な一ページとなることでしょう。私がヴォルフラーツハウゼンに行き感じたこと。それは雄大で、一つ一つの出来事が鮮明に印象付けられていて、同じ空の下に生きる人々の多様性に驚かされた。

皆さんがこの事業に参加するにあたって、様々な経緯があったでしょう。どんなに小さな理由でも、知りたい、感じたい、考えたい。そう思う気持ちがあ

ったのならそこに意味はあります。とても美しい街々を巡り、どうか遠く離れた西欧の生活を存分に体験してきて下さい！是非とも小さなことにも敏感に、学ぼうとする意欲を持って行ってきて下さい！

○ 西永 みなみ

ドイツの人にとってはとってもあったかくて語学に自信がなくても、外国に飛び込むガッツがあれば有意義な異文化交流ができますよ（^^*）
ただ、向こうの方は日本について詳しいので、こちらドイツについてしっかり下調べをしていく！これにつきるなあと身をもって実感しました。「よく学び、よく食べ、よく話す」うん。（-ω-）これ大事。

○ 金子 美桜

英語があまり話せなくても笑っていればなんとかなります！笑顔は世界共通です（^o^）/
十日間は長いだろうと思っているそこのあなた！超短いですよ！！だから、自分のやりたいことはなんなのかをちゃんと伝えて、より多くの体験をしてきてください。
では、夢のような楽しい旅を♪いってらっしゃい。。

○ 絹山 寿理亜

ドイツは本当にいいところです！人々は暖かく、優しい人ばかりです。ドイツ語や英語が上手くなくても積極的に話しかけることが大切です。私ははじめの方では、相手が話しかけてくるのを待っているだけで自分から話しかけようとはしませんでした。しかし、今となってはもっと積極的に話しかけるべきだったと後悔しています。10 日間は本当に短く、時間はあっという間に過ぎてしまいます。なので、自分のしたいことを明確にし、事前学習をしておくことをオススメします。

○ 北村 翼

とにかく恥ずかしがらない!!片言でも案外通じる。ドイツの人々も母国語は英語じゃないから、気持は全然分かってきているから大丈夫。積極的に接していけば楽しくなるので、普段シャイなら派遣期間だけでも超ハイテンションに!!
あと facebook を持っていれば向こうの子に話しかけるきっかけになりやすい。とりあえず「Do you have facebook」って言えば知らない子とも話がはじまる!!
派遣期間はいつの間にか終わっちゃうのでやりたいことなんでもやって楽しんできて下さい!!!

Wer am Samstag in der Altstadt unterwegs war, begegnete ihnen mehrmals: Die Jugendgruppe aus der Partnerstadt Iruma zog durch die Marktstraße, schaute im japanischen Garten vorbei, im Trachtengeschäft Fischer Pflügl und feierte schließlich im Garten der Bücherei beim japanischen Sommerfest mit.

VOM MINA DAEBEL

Wolfratshausen – Dort war auch Stadtrat Ludwig Gollwitzer anzutreffen, der in seinem optischen Auftreten bayerische und japanische Kultur zu vereinen versucht hatte. Gollwitzer kombinierte Lederhose und Trachtenhut zum farbenfrohen kurzen Kimono. Im selbstgeschneiderten traditionellen Kimono aus edlem Stoff hingegen waren Lisa-Marie Sauerborn (21) aus Wolfratshausen und ihre Freundin Carolin Gottmann (22) aus Dorfen auf dem japanischen Sommerfest erschienen.



Wissenswertes über Tracht: Peter Fischer erklärte den jugendlichen Gästen aus Iruma die Feinheiten der bayerischen Lebensart.

nen. Das Duo war ein echter Hingucker. „Die Menschen in Japan sind sehr höflich, das Land ist sicher und die Landschaft ganz anders als bei uns“, sagte Lisa-Marie Sauerborn, die bereits zwei Mal im Land der aufgehenden Sonne gewesen ist.

Hobbykoch Fumiyasu Yamamoto aus Wolfratshausen bereitete für die Gäste des Sommerfestes das köstliche Nudelgericht „Yakisoba“ zu. Rund 150 Portionen gingen auf blau-weißen Bayertellern über die Theke. Außerdem zeigten die Gäste aus

Iruma japanische Tänze, auf einer Bambusflöte spielte ein Köhner Meditationsmusik, Ikebana wurde genauso präsentiert wie japanische Keramik, Tee und Origami. Die Kunst des Papierfaltens zeigte Sibylle Grötz. „Ich mag die Genauigkeit beim Origami,

dass man etwas Kreatives macht und Spannendes entsteht“, sagte Grötz, die begeisterte Eltern und Kinder ins Papierfaltens einweilte.

Viel gute Laune herrschte am Samstagmittag auch im Trachtengeschäft Fischer Pflügl. Dort probierten die insgesamt zehn Mädchen und Jungen der Jugendgruppe aus Iruma, wie sie in einem bayerischen Gewand aussehen. Die Senior-Inhaber Helga und Peter Fischer, die selbst bald nach Japan reisen, beraten die jugendlichen gerne und vermittelten den Gästen viel Wissenswertes über die Tracht.

Damit Peter Fischer nicht komplett ohne japanische Sprachkenntnisse vor den jugendlichen stehen musste, hatte Bürgermeister Helmut Forster ihm schon einen Tag zuvor einen handschriftlichen Spickzettel mit den wichtigsten Vokabeln zugesteckt. „Konitschiwa“ heißt „guten Tag“ und „kawaii“ bedeutet „schön, niedlich“.

Genau das war dann auch die 15-jährige Nami in ihrem fliederfarbenen Dirndl, in dem sie sich sogleich fürs Fa-

milienalbum fotografieren ließ. Die 19-jährige Michi schlüpfte in ein rot-schwarzes Dirndl und Minami konnte dem Traum in Türkis nicht widerstehen. Eine schwarze Lederhose mit grünen Applikationen hatte es dem 15-jährigen Tsubasa angetan, und der 19-jährige Ippetta probierte die braune mit den Hosenträgern.

Japaner in Lederhosen: Das sind echte Naturburschen

„Das sind ja richtige Naturburschen, aus denen kann noch was werden“, sagte Peer (17), einer der jugendlichen, bei denen die Buben und Mädchen aus Iruma für die Dauer ihres Deutschlandaufenthalts untergebracht sind. Auch Sophia (17), Steffi (20), Lisa (14) und Tobi (16) waren begeistert von ihren japanischen Freunden in Tracht – der „bayerischen Art“, wie Bürgermeister Helmut Forster es nannte.

Wolfratshauer SZ vom 09. August 2010

Montag, 9. August 2010



Und jetzt noch ein Jodelkurs . . .

Das Trachtenmodengeschäft Fischer Pflügl am Obermarkt in Wolfratshausen Gast, um spaßeshalber Dirndl und Lederhosen anzuprobieren. Hier zupft Mit-
soll kein Kunde unzufrieden verlassen – im Zweifeln werden so lange Dirndl inhaberin Helga Fischer einer der jungen Japanerinnen das Dirndl zurecht,
und Lederhosen herausgesucht, bis das perfekte Gewand gefunden ist. Am die Schürze ist schon korrekt gebunden. Zum Abschied gab es für jeden ein
Samstag waren acht Jugendliche aus Wolfratshausens Partnerstadt Iruma zu Trachtentuch. (Seite 3). weis/foto: Manfred Neubauer

JUGENDGRUPPE AUS IRUMA



FOTOS: SABINE HEINZDORF

Tänze aus dem Land der aufgehenden Sonne: Im Garten der Bäckerei feierte der Partnerschaftsverein ein Fest zu Ehren der Gäste aus Japan.

Nami ist „kawai“ (niedlich)

IRUMA

Enorme Präzision auf zwei Zehen

Japaner geben
Baum sein eigenes Ge
beobachtet Diepen. Z
dass die Komposition
dividuellen Einzelteil
Ende ein stimmiges C
bild ergibt. Dann kon
Experte zu Wort: „I
nicht darum, etwas
ches herzustellen, der
soll sein natürliches
hen beibehalten“, e
Kaneko Katsura, seit
ren professioneller C
„Es ist mir wichtig, d
Steine gut sichtbar sin
ßerdem sollten die Bäu
ne Art Dach über dem
bilden. Allerdings hat
Gärtner auch ganz
Vorstellungen.“
Erwin Poloczek hat
Kamera dabei. „Wir
mentieren, wie man
schneiden muss“, kl
Vorsitzende des Pa
reins auf. Weil das Fac
nal in Zukunft aus fi
len Gründen nur no
fünf Jahre in die Flö
kommt, möchten die
amtlichen Gartenpfle
jeden Kniff abschauen
der Videosequenz
Übersetzer Paudler ei
dio-Kommentar. Den
menschnt wird der
nach Iruma schicken.
es ausdrücklich gewi



Sechs grüne Daumen geben Tipps: (v. re.) Kaneko Masayuki, Kaneko Katsura und Kondo Katsumi (2. v. li.) beraten Dietlind Diepen vom Gartenteam. Erwin Poloczek, Vorsitzender des Partnervereins, filmt, Lars Paudler übersetzt. FOTO: HERMESDORF

schiff machen, bekommen viele Blattläuse“, wendet sie sich an die Japaner, „ich wollte aber nicht mit Pestiziden arbeiten.“
tag Anschauungsunterricht.
DIEPENO DIEPEN

schiff machen, bekommen viele Blattläuse“, wendet sie sich an die Japaner, „ich wollte aber nicht mit Pestiziden arbeiten.“
tag Anschauungsunterricht.
DIEPENO DIEPEN

ACH

n – Haben Ja
ir zwei, dafür
dicke Zehen?
beim Japani
vorbeischaute,
Eindruck ge
wenn Kaneko
o Katsumi und
yuki zwischen
imherhuschen,
ind können sie
Thika Tabi ver
die weichen,
chuhe, die wie
en aussehen,
macht? „Man
en guten Halt,
tern auch das
läume“, erklärt

茶 つ み

1. 夏も近づく八十八夜

野にも山にも若葉が茂る



「あれに見えるは茶摘みじゃないか

あかねだすきに菅(すげ)の笠」

1. Natsumo chikazuku Hachiju hachiya

Nonimo yamanimo Wakabaga shigeru

「Areni mieruwa Chatsumi janaika

Akane dasukini Sugeno kasa」

**青少年異文化体験
訪問団派遣事業**

主催: 入間市・入間市国際交流協会

**派遣先: 姉妹都市
ドイツ・ヴォルフラーツハウゼン市**



【拡大図】

派遣目的

- ① 人生の中でも多感な時期に異文化を体験し理解するとともに互いを認め合うこと。
- ② 姉妹都市関係の発展に貢献すること。
- ③ 事業で得た経験を家族・友人・学校・地域社会等へ還元すること。

派遣内容

- ① ヴォルフラーツハウゼン市民宅にホームステイをし(8泊10日)、市民生活や社会習慣を体験します。
- ② 自ら設定するテーマについての学習を行う。

成田空港(出発前記念写真)



ゴミリサイクル処理場での学習



ヴォルフラーツハウゼン市役所

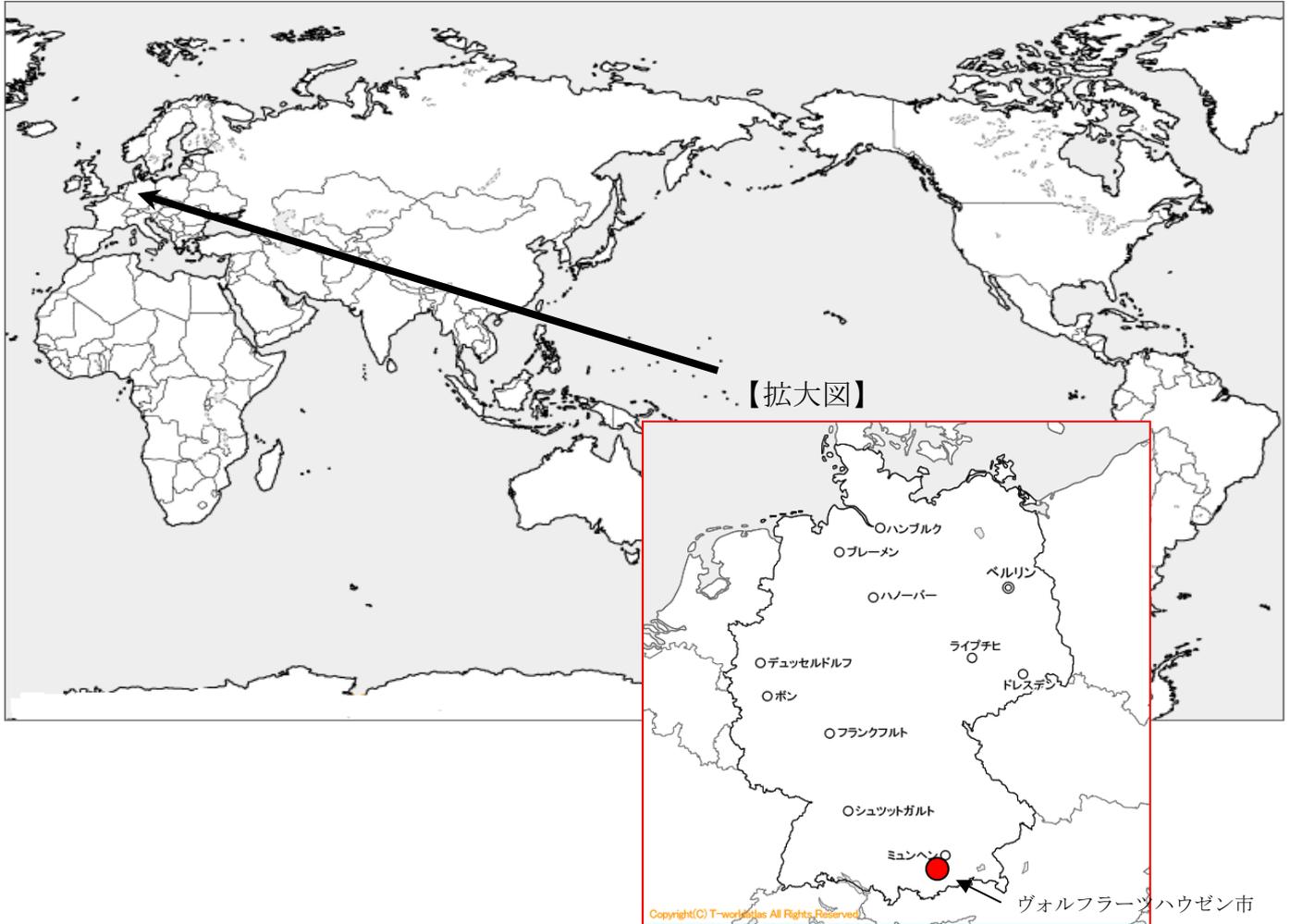


ヴォルフラーツハウゼン・ラリー



帰国報告会の様子





編集・発行

〒358-8511 入間市豊岡1-16-1
入間市 自治文化課 国際交流担当

TEL 04-2964-1111 内線 2146・2147

FAX 04-2965-0232

URL www.city.iruma.saitama.jp/i-society

E-mail i-society@city.iruma.lg.jp